

地域貢献と国際貢献を目指す

佐賀大学農学部

—自己点検・評価報告書—

〔平成 25 年度〕



2015年1月

基準 1 学部・研究科の目的**(1) 観点ごとの分析**

- 1-1 大学の目的（使命，教育研究活動を展開する上での基本的な方針，達成しようとしている基本的な成果等）が明確に定められており，その内容が学校教育法に規定されている，大学一般に求められる目的に適合するものであること。

観点 1-1-①： 大学の目的（学部，学科又は課程等の目的を含む。）が，学則等に明確に定められ，その目的が，学校教育法第 83 条に規定された，大学一般に求められる目的に適合しているか。

【観点に係る状況】

農学部は，その目的を定め，農学部規則に明記している（資料 1-1-1-1）。

農学部の目的

農学部は，農学及び関連する学問領域において，多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することを目的とする。

（出典：佐賀大学農学部規則（第 1 条の 2））

また，農学部を構成する 3 学科の目的を定め，農学部規則に明記している。

農学部 3 学科の目的

学 科	目 的
応用生物科学科	生物の特性を理解し，生物の改良や活用を通して，社会に貢献できる人材を育成すること。
生物環境科学科	【生物環境保全学コース】 地球上の環境や生態系を深く理解し，これらの保全，再生及び活用を通して，社会に貢献できる人材を育成すること。 【資源循環生産学コース】 生物科学及び生産情報科学の理論と技術を学び，環境に配慮した食糧生産と環境問題の解決に貢献できる人材を育成すること。 【地域社会開発学コース】 フィールドワークに基づく教育研究を通して，日本を含むアジア・太平洋諸地域における，持続可能な循環型地域社会の構築に貢献できる人材を育成すること。
生命機能科学科	科学的思考力を備え，生命科学技術の応用を通して，食と健康の分野において社会に貢献できる人材を育成すること。

（出典：佐賀大学農学部規則（第 1 条の 3））

資料 1-1-1-1 佐賀大学農学部規則

観点 1-1-②： 大学院を有する大学においては、大学院の目的（研究科又は専攻等の目的を含む。）が、学則等に明確に定められ、その目的が、学校教育法第 99 条に規定された大学院一般に求められる目的に適合しているか。

【観点に係る状況】

農学研究科は、その目的を定め、農学研究科規則に明記している（資料1-1-2-1）。

農学研究科の目的

研究科は、地域社会及び国際社会の発展に必要とされる農学上の諸課題を解決する能力、高い倫理意識及び国際的視野を有し、多方面において先端的・応用的・実用的な能力を発揮し、活躍できる創造性豊かな高度専門職業人を養成することを目的とする。

（出典：佐賀大学大学院農学研究科規則（第1条の2））

資料 1-1-2-1 佐賀大学大学院農学研究科規則

【分析結果とその根拠理由】

農学部及び構成する 3 学科の目的は、佐賀大学農学部規則第 1 条の 2 及び第 1 条の 3 にそれぞれ記載しており、これらの内容は学校教育法第 83 条に規定された大学一般の目的から外れるものではない。

農学研究科の目的は、佐賀大学大学院農学研究科規則第 1 条の 2 に記載しており、この内容は学校教育法第 99 条に規定された大学院一般の目的から外れるものではない。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部及び構成する 3 学科並びに農学研究科の目的は明確に定められており、それらの内容は学校教育法に規定されている大学及び大学院一般に定められる目的に適合している。

【改善を要する点】

専攻の目的が定められていないので、佐賀大学大学院農学研究科規則に記載する必要がある。

（3）基準 1 の自己評価の概要

農学部及び構成する 3 学科並びに農学研究科の目的は明確に定められており、それらの内容は学校教育法に規定されている大学及び大学院一般に求められる目的に適合している。

基準2 教育研究組織

(1) 観点ごとの分析

2-1 教育研究に係る基本的な組織構成（学部及びその学科，研究科及びその専攻，その他の組織並びに教養教育の実施体制）が，大学の目的に照らして適切なものであること。

観点2-1-①： 学部及びその学科の構成（学部，学科以外の基本的組織を設置している場合には，その構成）が，学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

【観点到る状況】

農学部は，佐賀大学学則及び佐賀大学学士力にもとづいて，学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針，入学者受け入れの方針を定め，それらにもとづき，総合科学である農学教育を実践するための学科を構成し，教育と研究を担当している。

農学部を構成する学科，講座，教育研究分野は，以下のとおりである。

教育研究組織（平成25年5月1日現在）

学科	講座	教育研究分野
応用生物科学科	生物資源開発学	熱帯作物改良学，動物資源開発学，植物代謝解析学，植物工学，蔬菜花卉園芸学，果樹園芸学，植物遺伝育種学
	生物資源制御学	植物病制御学，植物ウイルス病制御学，線虫学，昆虫学，システム生態学，動物行動生態学
生物環境科学科	生物環境保全学	地圏環境学，環境地盤学，水環境工学，浅海干潟環境学，生物環境学，海浜環境情報学
	資源循環生産学	資源循環生物学，農業生産機械学，生産システム情報学，施設農業生産学，作物生態生理学，家畜医療応用学，アグリフィールド保全学，バイオリソース学，オーガニックファーミング学
	地域社会開発学	地域ビジネス開発学，地域資源学，人類生態学，島嶼社会経済学
生命機能科学科	生命化学	生化学，機能高分子化学，応用微生物学
	食糧科学	生物資源利用学，食品化学，食糧安全学，食品栄養化学，活性天然物学

（出典：佐賀大学農学部「履修の手引」）

資料 2-1-1-1 佐賀大学学則

資料 2-1-1-2 「佐賀大学学士力」について (<http://www.saga-u.ac.jp/koho/2010gakushiryoku.htm>)

資料 2-1-1-3 佐賀大学農学部 3つの方針 (http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/housin_nou.pdf)

資料 2-1-1-4 農学部履修の手引（平成25年度）

資料 2-1-1-5 佐賀大学農学部ホームページ (<http://www.saga-u.ac.jp/school/nogaku/index.html>)

【分析結果とその根拠理由】

現在の農学部の学科は、教育研究目的をさらに達成するための適切な構成になっている。

観点 2-1-②： 教養教育の体制が適切に整備されているか。

【観点に係る状況】

教養教育は、全学部の教員が担当する全学教育機構への全学出動方式で運営されている。農学部教員は、教養教育科目（大学入門科目Ⅰ）を担当している。一部の教員は、教養教育科目（情報基礎概論、情報基礎演習Ⅰ、基本教養科目、インタフェース科目）を担当している（資料 2-1-2-1）。

資料 2-1-2-1 教養教育運営機構履修の手引き（平成 25 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部教員は、教養教育科目（大学入門科目Ⅰ、情報基礎概論、情報基礎演習Ⅰ、基本教養科目、インタフェース科目）を担当しており、全学出動方式による教養教育実施体制が適切に整備され、機能している。

観点 2-1-③： 研究科及びその専攻の構成（研究科、専攻以外の基本的組織を設置している場合には、その構成）が、大学院課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

【観点に係る状況】

農学研究科は、生物資源科学専攻の 1 専攻から組織され、本研究科の教育・研究目的・目標に基づいた 5 コース 7 講座・40 教育研究分野及び 1 副コース（農業技術経営管理学）から構成され、教員も各コースにバランスよく配置されていることから、大学院課程における教育研究の目的を達成する上で適切な教育研究組織になっている。

農業技術経営管理学 副コースにおいては経済学研究科教員に参加していただいて、教育の質の向上を図っている。

農学研究科の教育研究組織

専攻	学生定員	コース	講座	教育研究分野	教員数
生物資源科学	40	応用生物科学	生物資源開発学	熱帯作物改良学, 動物資源開発学, 植物代謝解析学, 蔬菜花卉園芸学, 果樹園芸学, 植物遺伝育種学, 植物工学	9
			生物資源制御学	植物病制御学, 植物ウイルス病制御学, 線虫学, 昆虫学, システム生態学, 動物行動生態学	6
		生物環境保全学	生物環境保全学	地圏環境学, 水環境工学, 浅海干潟環境学, 環境地盤学, 海浜環境情報学, 生物環境学	6
		資源循環生産学	資源循環生産学	農業生産機械学, 生産システム情報学, 施設農業生産学, 作物生態生理学, 家畜医療応用学, アグロフィールド保全学, 資源循環生物学, 植物資源遺伝学	10
		地域社会開発学	地域社会開発学	地域ビジネス開発学, 地域資源学, 人類生態学, 島嶼社会経済学	5
		生命機能科学	生命化学	生化学, 機能高分子化学, 応用微生物学, ☆分子細胞生物学	6
			食糧科学	生物資源利用学, 食品化学, 食糧安全学, 食品栄養化学, 活性天然物学	5
		農業技術経営管理学 (副コース)			

☆印は総合分析実験センターにおいて研究指導を行う。

(出典：佐賀大学大学院農学研究科履修案内)

資料 2-1-3-1 佐賀大学大学院学則

資料 2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内 (平成 25 年度)

資料 2-1-3-3 農学研究科農業技術経営管理者育成プログラムに関する要項

資料 2-1-3-4 「高度な農業技術経営管理者の育成プログラム」報告書

資料 3-1-1-3 仮定定員現員表 (平成 25 年度)

【分析結果とその根拠理由】

農学研究科の構成は、1 専攻・5 コース (1 副コース)・7 講座・40 教育研究分野からなり、教員も各コースにバランスよく配置されていることから、大学院課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点2-1-④： 専攻科，別科を設置している場合には，その構成が教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点2-1-⑤： 附属施設，センター等が，教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

【観点に係る状況】

農学部は，附属施設，全学的なセンター等と連携を保ちながら，学部教育及び研究に活用している。附属施設として農学部附属アグリ創生教育研究センターの教員（5名）及び全学的センターとして総合分析実験センターの一部の教員（1名）は，農学研究科に所属し，学部及び大学院の教育を分担している。

資料 2-1-1-4 農学部履修の手引（平成 25 年度）

資料 2-1-3-2 大学院農学研究科 履修案内（平成 25 年度）

資料 2-1-5-1 佐賀大学オンラインシラバス

(<http://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>)

【分析結果とその根拠理由】

農学部附属アグリ創生教育研究センターや総合分析実験センターを中心に，附属施設や全学的なセンターと農学部は教育面で密接に連携しており，農学部における教育と研究を達成する上で適切に機能している。

2-2 教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。

観点2-2-①： 教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っているか。
また、教育課程や教育方法等を検討する教務委員会等の組織が、適切に構成されており、必要な活動を行っているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部の教授会規程（資料2-2-1-1）に基づき、教員人事、教育課程の編成、学生の入学、卒業、学位授与など学士課程の教育活動に係る重要事項を教授会で審議している。教授会は、平成18年度以前は、教授、助教授、講師で構成し、平成19年度以降は、教授、准教授、講師、助教で構成している。農学部の教育活動との関係が深い総合分析実験センターの教員は、オブザーバーとして教授会に出席している。教授会は、毎月1回定例的に、また、必要に応じて臨時に開催している。

農学部内には教育担当副学部長を長とする教育委員会が組織されている。教育委員会へは各コースから1名の委員が選出され、教務事項の審議並びに教育課程や教育方法等の検討を行っている。

農学研究科

農学研究科では、研究科長（学部長兼任）及び研究科を担当できる資格を持つ教授、准教授、講師及び助教より構成される研究科委員会を設置している。この委員会では、農学研究科委員会規程（資料2-2-1-2）に基づき、研究科における教員人事及び教育課程の編成、学生の入学、修了、学位授与など修士課程の教育活動に係る重要事項を毎月1回定例的に、必要に応じて臨時に開催し、審議している（資料2-2-1-3）。

各コースから1名の委員が選出されている大学院教育小委員会が設置され、教務事項の審議並びに教育課程や教育方法等の検討を行っている。また、学部教育や全学教育との連携を図るために、大学院教育小委員会には教育担当副学部長がオブザーバーとして参加している。

資料2-2-1-1	農学部教授会規程
資料2-2-1-2	農学部教育委員会規程
資料2-2-1-3	農学部教育委員会 議事録
資料2-2-1-4	農学研究科委員会規程
資料2-2-1-5	大学院教育小委員会 議事録

【分析結果とその根拠理由】

農学部

教授会は、定例又は臨時に開催され、教育活動に係る重要事項を滞りなく審議・決定するための必要な活動を行っている。

教育委員会は、教務事項の審議並びに教育課程や教育方法等の検討などの必要な活動を行っている。

農学研究科

研究科委員会は、教育活動に係る重要事項を審議するため、毎月1回定期的に、また必要に応じて臨時に行っている。

大学院教育小委員会は、教務事項の審議並びに教育課程や教育方法等の検討などの必要な活動を行っている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部及び農学研究科の教育研究に係る基本的な組織構成は、大学の目的に照らして適切なものになっている。農学部内に教育担当副学部長を長とする教育委員会が組織されており、教育委員会へは各コースから1名の委員が選出され、教務事項の審議並びに教育課程や教育方法等の検討を定期的に行っている。

農学研究科の各コースから1名の委員が選出されている大学院教育小委員会が設置され、教務事項の審議並びに教育課程や教育方法等の検討を行っている。また、学部教育や全学教育との連携を図るために、大学院教育小委員会には教育担当副学部長がオブザーバーとして参加している。

【改善を要する点】

特になし

(3) 基準2の自己評価の概要

農学部及び農学研究科の教育研究に係る基本的な組織構成は、大学の目的に照らして適切なものになっている。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

3-1 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。

観点3-1-①： 教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制が確保され、教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編制がなされているか。

【観点に係る状況】

農学部

教員組織編制の基本的方針は、学部長の諮問を受けて農学部基本計画委員会が検討し、提案している（資料 3-1-1-1）。教員の配置は、学部長の諮問を受けて農学部人事委員会で検討し、提案している（資料 3-1-1-2）。教員は、学士課程の教育研究の目的・目標を達成するために、3学科7講座に、バランスよく配置されている（資料 3-1-1-3）。教育研究分野の改廃等は、関係講座から発議され、人事委員会及び基本計画委員会における検討を経て、教授会で審議・決定される。

農学研究科

農学研究科では、教育と研究は一体であるという基本方針の下に、修士課程の教育研究の目的・目標を達成するため、1専攻・5コース（1副コース）・7講座・40教育研究分野で構成されている。コースあるいは講座単位で発議された教育研究上の重要な課題、教育研究分野の改廃等は、まず各該当するコース会議等で審議され、基本計画委員会及び人事委員会の検討を経て、最終的に研究科委員会（資料 3-1-1-3, 2-2-1-4）で審議・決定されており、問題がある場合は各コースに戻して再検討するなど、組織的に公平かつ責任ある連携体制を確保している。

資料 3-1-1-1 農学部基本計画委員会規程
 資料 3-1-1-2 農学部人事委員会内規
 資料 3-1-1-3 仮定定員現員表（平成 25 年度）
 資料 2-2-1-4 農学研究科委員会規程

【分析結果とその根拠理由】

農学部

農学部は、教育と研究は一体であるという基本的方針に基づき、3学科7講座で構成され、学科、講座、関連委員会及び教授会の間で組織的な連携体制が確保されると同時に、教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編成となっている。

農学研究科

農学研究科は、教育と研究は一体であるという基本的方針に基づき1専攻5コース（1副コース）7講

座で構成され、コース、講座、関連委員会及び研究科委員会の間で組織的な連携体制が確保されると同時に、教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編成となっている。

観点3-1-②： 学士課程において、教育活動を展開するために必要な教員が確保されているか。また、教育上主要と認める授業科目には、専任の教授又は准教授を配置しているか。

【観点に係る状況】

農学部の教育課程を遂行するための専任教員は、平成25年5月現在で47人が確保されている。教育上必要な授業科目の担当教員として、専任教員（教授、准教授）を配置している。学部教育の一部は、講師と助教が担当している。

農学部の教員配置（平成25年5月1日現在）

学 科	教授	准教授	講師	助教	非常勤講師		合計
					学外	学内	
応用生物科学科	7	6	1	0	3	0	18
生物環境科学科	8	6	2	0	4	2	22
生命機能科学科	5	5	1	1	1	1	14
附属アグリ創生教育研究センター（注）	2	3	0	0	0	0	5

（注）附属アグリ創生教育研究センターの教員は、教育組織である生物環境科学科に所属。

上表の専任教員に加えて、農学部における教育研究との関連が深い総合分析実験センターの教員が、それぞれの専門を活かした授業科目を担当している。

資料2-1-1-4 農学部履修の手引（平成25年度）

資料3-1-1-3 仮定定員現員表（平成25年度）

資料3-1-2-1 平成25年度非常勤講師一覧

【分析結果とその根拠理由】

農学部の教育課程を遂行するための教員は、必要数確保されている。また、教育上主要な授業科目は、専任の教授又は准教授を配置し、その他の授業科目は、専任の教授・准教授・講師・助教が分担・協力して担っている。

観点3-1-③： 大学院課程において、教育活動を展開するために必要な教員が確保されているか。

【観点に係る状況】

農学研究科では佐賀地域に立脚しながら、地球的規模で農学を考えることのできる幅広い視野、高度な専門的知識、理解力・実践力等を備えた国際性豊かな人材の育成を目的としており、この目的のために、下に示すように47人の専任教員が各コース・講座に配置され、研究指導教員及び研究指導補助教員として研究指導に携わっている。また、これらの専任教員は、それぞれの研究分野に関する講義及び特別研究も担当している。教員の退職・不補充が原因で生じる未開講科目、専門性の高い教職免許状（専修）取得関連科目等には、平成25年度は4人の非常勤講師を充てることにより対応した。

農学研究科担当教員数（平成25年5月1日現在）

コース	講座数	教育研究分野数						
			教 授	准教授	講 師	助 教	非常勤講師	合 計
応用生物科学	2	13	7	7	1	0	2	17
生物環境保全学	1	6	1	4	1	0	0	6
資源循環生産学	1	8	4	6	0	0	0	10
地域社会開発学	1	4	3	2	0	0	2	7
生命機能科学	2	9	5	6	0	0	0	11

（出典：平成25年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内，平成25年度非常勤講師一覧）

資料2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内（平成25年度）

資料3-1-2-1 平成25年度非常勤講師一覧

【分析結果とその根拠理由】

農学研究科の教育研究目的・目標に沿って、教育・研究が可能な50人を超える教員が研究指導教員及び研究指導補助教員として確保されている。

観点3-1-④： 大学の目的に応じて、教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

農学部及び農学研究科ともに、教員組織の活動をより活性化するための方策を学部運営会議が中心となって検討し、必要に応じ、学部内委員会や教授会及び研究科委員会と連携を図りながら適切な措置を講じることとしている。

資料3-1-4-1 学部運営会議議事録

【分析結果とその根拠理由】

農学部及び農学研究科ともに、その目的に応じて、教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられている。

- 3-2 教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準が定められ、適切に運用されていること。
また、教員の教育及び研究活動等に関する評価が継続的に実施され、教員の資質が適切に維持されていること。

観点3-2-①： 教員の採用基準や昇格基準等が明確に定められ、適切に運用がなされているか。特に、学士課程においては、教育上の指導能力の評価、また大学院課程においては、教育研究上の指導能力の評価が行われているか。

【観点に係る状況】

農学部

教育研究水準を高く維持するために、佐賀大学教員選考基準に基づく農学部教員選考規程を制定し、この規程に基づいて教員の採用及び昇格を行っている。採用及び昇格候補者の選考は、教授会で選出される教員5人で構成される教員選考委員会が担当し、厳格な書類審査（履歴書、研究業績目録、研究業績説明書等）と、学士課程における教育上の指導能力の評価を実施している。特に、教員選考委員会における審査の最終段階で、必要に応じて、候補者にプレゼンテーションを求め、授業担当能力を測っている。そして、教員選考委員会の報告に基づき教授会における審議により、採用及び昇格候補者を決定している。

農学研究科

農学研究科では学部と同様に、佐賀大学教員選考基準及び佐賀大学農学部教員選考規程に基づいた教員の採用・昇任を行っている。

修士課程の教育研究担当者は、より高度な研究水準を維持するため、博士の学位を有することは勿論、主指導・副指導教員の資格として求められるレフェリー付きの論文数等をクリアーすることを条件とするなど、大学院課程における教育研究上の指導能力の厳格な評価を行い、研究科委員会の議に基づき、採用者あるいは大学院科目の担当者を決定している。

なお、本学の博士課程の担当者は鹿児島大学大学院連合農学研究科の資格審査委員会において、別途主指導あるいは副指導教員の資格審査を受けることになっているが、この資格基準も本学の修士課程の主指導あるいは副指導教員資格と全く同じく厳格な水準にある。

農学研究科教員資格判定基準

主指導教員	修士課程の研究指導及び講義を担当し、学位論文審査の主査となることができる。論文1(レフェリー付き論文)が20編以上「ただし、第1著者(Corresponding Authorを含む。)である論文が10編以上あること」で、最近5年間の業績が5編以上あること。
副指導教員	修士課程の研究指導及び講義を担当する。論文1(レフェリー付き論文)が12編以上「ただし、第1著者(Corresponding Authorを含む。)である論文が6編以上あること」で、最近5年間の業績が5編以上あること。

(出典：佐賀大学大学院農学研究科教員資格審査判定基準の申合せ)

資料 3-2-1-1 佐賀大学教員選考基準

資料 3-2-1-2 農学部教員選考規程

資料 3-2-1-3 農学部教員候補者の推薦依頼に関する申合せ

資料 3-2-1-4 大学院農学研究科教員選考基準

資料 3-2-1-5 鹿児島大学大学院連合農学研究科ホームページ(教員資格審査)

(http://homeugs.agri.kagoshima-u.ac.jp/2teacher_new.html)

【分析結果とその根拠理由】

農学部

教員選考基準は明確に定められ、教員選考は、教育上の指導能力と相応の教育上の評価に基づいて実施している。このことにより、教員の採用及び昇格は、適切に運用がなされている。

農学研究科

佐賀大学教員選考基準に基づいた佐賀大学農学部教員選考規程に則って、研究科委員会の議に基づき、教員候補者を決定している。さらに、修士課程の担当者はより高度な研究水準を維持するため、博士の学位を有することは勿論、指定したレフェリー付きの論文数をクリアーすることを条件とするなど、教育研究上の指導能力についてより厳格な評価を行っている。

観点3-2-②： 教員の教育及び研究活動等に関する評価が継続的に行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部は、平成5年4月に農学部自己点検・評価委員会を設置し、平成6年からほぼ4年ごとに自己点検評価を実施している。平成14年4月からは、農学部評価委員会が、平成22年7月からは農学部中期目標・中期計画実施本部が、教育及び研究活動等に関する評価を実施している。教員の教育・研究業績、社会貢献、国際貢献、学内運営に関する活動、研究費の獲得状況等をまとめた佐賀大学農学部教員教育研究業績総覧は、教員の教育活動を定期的に評価するためのデータベースとして機能し

ている。平成16年度に、農学部個人評価に関する実施要項を策定し、以後、教員についての個人評価を毎年、実施している。評価の結果は、教員へ通知され、教育活動の改善に利用されている。

また、教育委員会及びFD委員会は、学生による授業評価と授業改善を、大学教育委員会と連携して実施し、学生による授業評価の結果は、教育改善に利用されている。

佐賀大学には教育功績者を表彰する制度があり、このような個人評価等に基づいて、学内外で優れた教育活動を行った教員数人を毎年、佐賀大学学長が表彰している。

農学研究科

平成5年4月に農学部自己点検・評価委員会を発足させ、平成6年からほぼ4年ごとに自己点検・評価を行ってきた。同委員会は平成14年4月から農学部評価委員会が、平成22年7月からは農学部中期目標・中期計画実施本部が、研究科担当教員の教育・研究業績、社会貢献、国際貢献、学内運営等について評価活動を行ってきた。また、平成16年度から新たに農学部個人評価に関する実施基準を策定し、当年度から研究教育活動等に関する個人評価報告書に基づき、個人による自己評価結果及び次年度の目標などの提出を毎年、義務付けている。評価の結果は、教員へ通知され、教育活動の改善に利用されている。

また、大学院教育小委員会及び大学院FD委員会は、学生による授業評価と授業改善を、大学教育委員会と連携して実施し、学生による授業評価の結果は、教育改善に利用されている。

資料 3-2-2-1 農学部評価委員会規程

資料 3-2-2-2 農学部中期目標・中期計画実施本部規程

資料 3-2-2-2 佐賀大学農学部教員教育研究業績総覧（2002年、2006年）

資料 3-2-2-3 佐賀大学農学部教員の個人評価に関する実施基準

資料 3-2-2-4 農学部教員個人評価実施基準

資料 3-2-2-5 教員個人評価報告書（平成25年度）

資料 3-2-2-6 平成25年度農学部FD活動報告書

資料 3-2-2-7 学生による授業評価の実施に関する報告書（平成25年度）

(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/hyoka.html>)

資料 3-2-2-8 佐賀大学教育功績等表彰規程

【分析結果とその根拠理由】

農学部

農学部中期目標・中期計画実施本部が設置され、教員の教育活動に関する適切かつ定期的な評価が実施されており、その結果把握された事項に対する適切な取組として学部長から各教員へ評価結果を伝えている。また、教育委員会及びFD委員会は、学生による授業評価と授業改善を、大学教育委員会と連携して実施している。

農学研究科

農学部中期目標・中期計画実施本部が設置され、評価方法等を検討すると同時に、この評価方法に

基づき研究科担当教員の教育活動について定期的に評価を行っている。また、大学院教育小委員会及び大学院FD委員会は、学生による授業評価と授業改善を、大学教育委員会と連携して実施している。

3-3 教育活動を展開するために必要な教育支援者の配置や教育補助者の活用が適切に行われていること。

観点3-3-①： 教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。また、TA等の教育補助者の活用が図られているか。

【観点に係る状況】

農学部

教育課程の展開を事務の面から支援する学務部教務課農学部教務担当に、職員3人を配置している（資料3-3-1-1）。技術職員は、農学部4人、附属アグリ創生教育研究センターに5人配置している。技術職員は、学生実験・実習、資源循環フィールド科学実習・演習等の授業を支援し、教育支援者として重要な役割を果たしている（資料3-3-1-2）。大学院修士課程及び博士課程の大学院生がTAに採用され、実験、実習、演習等の教育補助業務を行っている。

農学研究科

学務部教務課農学部教務担当及び附属アグリ創生教育研究センターの事務職員（非常勤職員も含む。）が大学院修士課程をそれぞれ支援している。また、学部4人、附属アグリ創生教育研究センターに5人配置された技術職員は、大学院課程の実験・実習及び演習等の授業等に教育支援者として従事している。さらに、多数の大学院修士課程の学生がTAとして学部配置され、実験、実習、演習等の教育補助業務を行うと同時に、教員と学部学生のパイプ役としても重要な役割を果たしている。平成25年度は延べ65科目、3,479.5時間にTAが採用された。

農学部事務職員現員表（平成25年5月1日現在）

区分	事務職員 行(一)	技術職員 行(一)	計	非常勤職員
事務長	1		1	
総務係	3		3	3
技術職員		4	4	
附属アグリ創生教育研究センター	1	5	6	5
計	5	9	14	8

平成25年度TAの活用状況

年度	項目	実験補助項目					合計
		実験	実習	演習	講義	卒業研究	
25	TA延べ人数	71	31	66	14	37	219

	科目数	20	9	21	8	10	68
--	-----	----	---	----	---	----	----

資料 3-3-1-1 学務部職員名簿

資料 3-3-1-2 事務職員現員表（平成 25 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

学務部教務課職員と農学部技術職員は、教育支援者として適切に配置され、機能している。実験、実習、演習等の教育補助業務のために T A が活用され、教育と学生をつなぐパイプ役として、重要な役割を果たしている。

農学研究科

学務部教務課職員と農学部の技術職員が研究科教育課程における実験、実習、演習等の教育支援を行っている。また、多数の大学院修士の学生を T A として学部配置し、教育補助を行っていることから、研究科の教育課程を展開するために必要な教育補助者として適切に配置され、十分な活用が図られている。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

教育活動を展開するために必要な教員や事務職員、技術職員、T A が適切に配置されている。

【改善を要する点】

特になし

（３）基準３の自己評価の概要

農学部及び農学研究科の教員、事務職員、技術職員等は、教育研究を展開するために必要な人員が確保され、また適切に配置されている。

基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。

観点4-1-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点到係る状況】

農学部

農学部の教育目的を達成するため、アドミッション・ポリシーを明確に定め、ホームページ等を通じて、広く公表している。

農学部のアドミッション・ポリシー

<教育目的>

今、私たちが生きる21世紀は、大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から循環型社会への大転換が求められています。このような時代背景のなか、日本有数の食料生産基地である佐賀平野に立地する佐賀大学農学部は、農学という学問が、理系から文系にわたり、基礎から応用に及ぶ総合科学であることを踏まえ、「食料」、「生命」、「環境」、「情報」、「エネルギー」、「地域社会」をキーワードとした多様な重要な課題を解決していこうとしています。そのために、創造性豊かな専門職業人を育て、国内はもとより、アジアをはじめとする世界に貢献します。これらのことから、農学部は、個性とバイタリティーにあふれ、基礎学力を有する人を歓迎します。

応用生物科学科

<応用生物科学科の目的と求める学生像>

応用生物科学科では、生物の特性を理解し、生物の改良や活用を通して、社会に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。① 多様な動植物の生理生態的特性の解明、バイオテクノロジーを用いた有用生物資源の開発・利用、有用動植物を加害する病害虫の制御等についての理解と関心がある人 ② 問題解決に向けて、粘り強く自己研鑽に努める熱意と実行力がある人 ③ 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

<応用生物科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み>

生物に対する興味があり、生物の機能また生物が生育する環境について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高

等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学は、実験や調査活動を自主的にかつ継続的にこなすことが重要です。また、その課題はグローバルな問題が多くあります。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人、留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が必要です。

生物環境科学科

<生物環境科学科の目的と求める学生像>

生物環境科学科では、3つのコースにおいて次のような人材を育成します。生物環境保全学コースでは、地球上の環境や生態系を深く理解し、これらの保全、再生及び活用を通して、社会に貢献できる人材を育成します。資源循環生産学コースでは、生物科学及び生産情報科学の理論と技術を学び、環境に配慮した食糧生産と環境問題の解決に貢献できる人材を育成します。地域社会開発学コースでは、フィールドワークに基づく教育研究を通して、日本を含むアジア・太平洋諸地域における、持続可能な循環型地域社会の構築に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。① 自然環境、社会環境及び生物生産環境の保全と修復に興味を持つ人 ② 永続的な農業を可能にする新たな生物生産システム及び経済社会システムの創造に意欲がある人 ③ 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

<生物環境科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み>

人間を含む生物やそれを取り巻く環境及び人間社会に対する興味があり、これらを総合的に学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史、文化といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学の課題にはグローバルな問題が多くあり、それを解決する糸口を得るため、実験や調査活動を自主的にかつ継続的にこなすことが重要です。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人また留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が望まれます。

生命機能科学科

<生命機能科学科の目的と求める学生像>

生命機能科学科では、科学的思考力を備え、生命科学技術の応用を通して、食と健康の分野において社会に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。① 生体における遺伝子の発現や物質代謝とそれらの調節機構を分子レベルで理解するライフサイエンス、食品の生体調節機能、栄養機能や安全性等に興味を持っている人 ② 将来、本学科で学んだ知識や技術を社会で活かそうと考えている人

<生命機能科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み>

生命現象に対する科学的興味があり、微生物から高等生物までの生命体が持つ機能について学習す

るための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史、文化といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学は、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。また、その課題はグローバルな問題が多くあります。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人また留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が必要です。

入学者選抜の基本方針（入学、選抜、選抜基準等）

農学部が求める学生像にふさわしい学生を選抜するために、一般選抜、推薦入試、3年次編入学試験等の多様な入学試験を実施します。

1 一般選抜

高等学校等での学習の達成度を評価するために、大学入試センター試験及び個別試験を課します。大学入試センター試験では、5教科7科目を課し、数学及び理科の学力を重視します。個別学力検査では、前期日程で数学及び英語、後期日程で数学の学力試験を課し、入学後に必要な基礎学力を測ります。

2 推薦入試

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査（調査書、推薦書、作文等）、小論文及び口頭試問によって評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問と小論文によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

3 3年次編入学試験

高等専門学校、短期大学、大学の卒業者と卒業見込みの者、大学に2年以上在学し所定の単位を修得した者等を対象とします。試験科目は、英語、口頭試問及び面接です。

4 帰国子女特別選抜

小論文、口頭試問及び面接を課します。

5 私費外国人留学生選抜

独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」、TOEFL及び面接を課します。

（出典：佐賀大学アドミッションセンターホームページ）

また、一般選抜、私費外国人留学生選抜、帰国子女特別選抜等の学生募集要項に、学部及び各学科のアドミッション・ポリシーを明記している（資料4-1-1-1）。学生募集要項等の印刷物は、高校、短大、高等専門学校、本学志願者、文部科学省、本学教職員、事務局各課等に配布することにより、周知している（資料4-1-1-2）。

毎年実施している大学説明会（オープンキャンパス）（資料4-1-1-3）、ジョイントセミナー（高校訪

問) (資料 4-1-1-4), 高校関係者との懇談会 (資料 4-1-1-5), 進学説明会等において, アドミッション・ポリシー, 教育研究の特色等について説明し, 学内外の関係者への周知を図っている。

農学研究科

農学研究科の教育目的は, 本学及び農学研究科の理念と教育研究の基本方針に従っており, 佐賀地域に立脚しながら, 地域社会及び国際社会の発展に必要とされる農学上の諸課題を解決する能力, 高い倫理意識及び国際的視野を有し, 多方面において先端的・応用的・実用的な能力を発揮し, 活躍できる創造性豊かな高度専門職業人を養成することである (資料 4-1-1-6)。この教育目的に沿って, アドミッション・ポリシーを定め, 募集要項 (資料 4-1-1-6) に示す学生の受け入れを方針としている。また, 各コースのアドミッション・ポリシーも明確に定めている (資料 4-1-1-6)。

農学研究科のアドミッション・ポリシー

<農学研究科が求める学生像>

農学を基盤とした人類の生存に必要な食料, 環境, 資源・エネルギー, 経済・社会・文化, 生命などに関わる 5 つの教育研究コースを擁しています。本研究科は, 科学技術の高度化・国際化を踏まえつつ, 各コースにおける学習と研究を通じて当該専門分野における専門職業人又は研究者としての知識・技能を高め, リーダーとして社会に貢献する人材を育成します。そのために, 以下に示すような学生を求めています。

- ① 専門分野における基礎知識を持ち, かつ明確な問題意識を持つ人
- ② 研究課題に取り組む旺盛な意欲と研究を貫徹する実行力のある人
- ③ 語学力ならびに高いコミュニケーション能力を有する人
- ④ 本研究科での研究を通じて社会に貢献しようという意識の高い人
- ⑤ 農学系大学院博士後期課程に進学して, 農学関連の研究者や専門技術者を目指す人

<コースの求める学生像>

1 応用生物科学コース

有用な動植物の育種開発ならびに生物制御機構の解明と応用を中心としたバイオサイエンスに関する知識の修得と研究を志す人

2 生物環境保全学コース

環境負荷の少ない生物生産環境の創出と保全ならびに地球レベルから地域までの幅広い保全と創造に関する知識の修得と研究を志す人

3 資源循環生産学コース

資源循環型の生物生産システムの構築ならびに環境に配慮した農産・加工とバイオエネルギー開発に関する知識の修得と研究を志す人

4 地域社会開発学コース

農林水産に関する政策・流通経済・経営管理システム, 農村の社会構造と集落維持システムならびに産業・地域開発に伴う環境問題と健康問題に関する知識の修得と研究を志す人

5 生命機能科学コース

生命現象と遺伝機能の化学的解明ならびに生物の機能性を利活用した食品の製造・貯蔵などに関する知識の修得と研究を志す人

(出典：佐賀大学アドミッションセンターホームページ)

このアドミッション・ポリシーは、大学院募集要項を学内外に配布することで周知するほか佐賀大学農学部ホームページにも掲載しており、学内外に広く公表・周知されている。

資料 4-1-1-1 佐賀大学入学者選抜要項（平成 26 年度）

資料 4-1-1-2 学生募集要項配布先一覧（平成 25 年度）

資料 4-1-1-3 大学説明会，高等学校・学部別参加申込者数一覧（平成 25 年度）

資料 4-1-1-4 ジョイントセミナー実施高校・出席者一覧（平成 25 年度）

資料 4-1-1-5 高校関係者との懇談会の実施状況（平成 25 年度）

資料 4-1-1-6 佐賀大学大学院学生募集要項（平成 26 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

アドミッション・ポリシーが明確に定められ、ホームページ，農学部紹介パンフレット等を通じて、学内外に公表，周知している。

農学研究科

アドミッション・ポリシーは明確に定められ、これらの内容については佐賀大学大学院学生募集要項及び佐賀大学農学部ホームページに掲載され、学内外に広く公表，周知されている。

観点 4-1-②： 入学者受入方針に沿って，適切な学生の受入方法が採用されているか。

【観点に係る状況】

農学部

アドミッション・ポリシーに合致する学生を求めるために，多様な選抜試験を実施し，学力，思考力，勉学意欲，独創性などを測ることによって，入学者を決定している。

学部 1 年次生は，入学定員の約 80%を一般選抜により受け入れている。一般選抜は，前期日程を重視し，農学部を目指す入学志願者を積極的に受け入れている（資料 4-1-2-1）。前期日程及び後期日程ともに，大学入試センター試験を課している。個別試験は，前期日程試験では英語と数学を，後期日程試験では数学を課している。大学入試センター試験と個別試験の結果を総合して，合格者を決定している。

入学定員の約 20%を推薦入試により受け入れている。推薦入試は，大学入試センター試験を免除し，推薦書，調査書，小論文及び面接に基づいて合格者を決めている（資料 4-1-1-1）。

農学部学生の選抜・受け入れ状況

学 科	年度	入学定員	入学者			
			合計	推薦	前期	後期
応用生物科学科	21	45	47	10	25	12
	22	45	50	10	30	10
	23	45	48	10	30	8
	24	45	49	10	30	9
	25	45	49	10	31	8
生物環境科学科	21	60	69	16	41	12
	22	60	61	17	33	11
	23	60	65	15	35	15
	24	60	61	15	38	8
	25	60	66	13	37	16
生命機能科学科	21	40	44	6	30	8
	22	40	43	6	31	6
	23	40	43	6	29	8
	24	40	42	5	32	5
	25	40	42	5	33	4

(出典：アドミッションセンターホームページ「入学試験に関する統計」)

外国人留学生については、英文のアドミッション・ポリシーを募集要項に記載し、特別選抜を実施している。大学入試センター試験を免除し、成績証明書、日本留学試験、TOEFL、面接の総合点に基づいて合格者を決定している。

3年次編入学試験（入学定員10人）は、短期大学、高等専門学校等の卒業見込み者等を対象として実施している。合格者は、推薦書、調査書（成績証明書）、学力試験（英語、数学又は生物）及び面接の総合点に基づいて決定している（資料4-1-2-2）。

帰国子女については、帰国子女特別選抜枠を設けている。大学入試センター試験を免除し、推薦書、調査書、小論文及び面接の総合点に基づいて合格を決定している（資料4-1-1-1、4-1-2-3）。

社会人受入れは、農学部では実施していない。

農学研究科

農学研究科では、入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）に沿い、次に示す選抜方法を採用している。一般選抜においては、筆記試験（英語及び専門科目）、面接及び提出書類（成績証明書、志望理由書等）により、また、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜においては、口述試験面接及び提出書類（成績証明書、志望理由書、研究業績書、研究計画書等）により、学力、思考能力、独創性、人間性及び勉学意欲などを総合評価し、選抜している（資料4-1-1-6）。この方針に沿って、修学に必要な学力、能力及び専門分野の内容などについて口述試験及び面接を行い、求める学生像にふさわしい人物を選抜している。

農学研究科の入学選抜の基本方針（入学，選抜，選抜基準等）

【一般入試】

農学研究科が求める学生像に相応しい学生を選抜するために、外国語（英語）能力と専門分野の知識を問う筆記試験ならびに口頭試問を含む面接試験を実施します。

外国語（英語）試験は、農学研究科の共通問題が課されます。試験問題には、農学・生物科学・環境科学分野における基礎的な題材を取り上げ、筆答による英語の読解力と作文力をみます。

専門試験は、各コースの専門試験として受験者個別に課され、当該コースでの学習・研究に必要な専門的知識の修得程度をみます。応用生物科学コース，生物環境保全学コース，資源循環生産学コース及び地域社会開発学コースは，受験者の志望する教育研究分野の専門試験を出題します。生命機能科学コースは，受験者の志望する教育研究分野の専門試験に加えて，当該コースの共通問題も出題します。

【社会人特別入試】

農学研究科は，大学卒業後に社会における専門分野の職業経験を持つ者を受け入れて，再教育ならびに高度な研究の推進を通じて社会への貢献を目指しています。したがって，社会人特別入試の受験者は，口頭試問及び面接によって専門分野における基礎知識・研究課題ならびに入学後の修学条件等が問われます。

【外国人留学生特別入試】

農学研究科は，設置趣旨に沿い，世界に開かれています。したがって，外国人留学生特別入試の受験者は，口頭試問及び面接によって専門分野における基礎知識，コミュニケーション能力ならびに研究課題等が問われます。

資料 4-1-2-1 入学試験に関する統計（平成 21 年度～25 年度）

(<http://www.sao.saga-u.ac.jp/nyushidata/nyuushitoukei/>)

資料 4-1-1-1 佐賀大学入学選抜要項（平成 26 年度）

資料 4-1-2-2 佐賀大学編入学学生募集要項（平成 26 年度）

資料 4-1-2-3 佐賀大学推薦・帰国子女特別選抜学生募集要項（平成 26 年度）

資料 4-1-1-6 佐賀大学大学院学生募集要項（平成 26 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

アドミッション・ポリシーに基づいて，多様かつ適切な入試を実施している。これらの入学選抜方法は，本学部の目的に合致する学生を受け入れる上で，実質的に機能している。

また，留学生，編入学生，帰国子女に係る入学選抜は，農学部の教育の目的，アドミッション・ポリシーに沿って，適切に実施され，実質的に機能している。

農学研究科

アドミッション・ポリシーに沿って，適切な学生の選抜方法を採用し，実質的に機能している。ま

た、多様で広範な人物を受け入れるため、社会人特別選抜と外国人留学生特別選抜も実施し、研究科のアドミッション・ポリシーに沿った適切な選抜方法が講じられている。

観点 4-1-③： 入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部の入学者選抜は、佐賀大学の入学者選抜に係る規程に基づいて実施している（資料 4-1-1-1）。

学長を委員長とする入学試験委員会（以下「入試委員会」という。）は、入学者選抜の実施及び本学における大学入試センター試験の実施に関する基本的事項と重要事項について審議している。試験問題の作成は、入試委員会のもとに置かれた各試験科目の専門委員会が担当している。入学試験問題は、十分な教育研究経験を有する教員により作成されている。公正を期するため、入学試験問題作成に関わる情報は非公開としている。

入学試験の際には、入学試験実施本部及び各試験場本部が置かれ、学長が本部長を、各学部長が各試験場本部責任者（試験場責任者）を務める（資料 4-1-3-1）。入学試験問題作成委員会委員長及び問題作成責任者も試験実施本部員に加わり、入学者選抜を遺漏なく実施するよう配慮している。

面接、口頭試問においては、試験教員を複数人で構成することにより、公正な合否判定が行えるように配慮している。合格候補者は、各学科、教授会における審議を経て決定している。

農学研究科

農学研究科長を総括責任者として、農学部入試委員会の中にある大学院入学試験小委員会が入学者選抜の実施に関する基本的事項及び実施に関する重要事項を審議・決定し、この実施方法により選定された合格候補者について、各コースと研究科委員会の議を経て合格判定が行われている（資料 4-1-3-2）。

入学試験問題の作成は、入試委員会のもとに置かれた各専門委員会が担当し、十分な教育研究経験を有する教員により非公開で作成され、面接、口頭試問においては試験委員を複数人で構成することにより、公正な合否判定が行えるよう配慮している（資料 4-1-3-3）。

資料 4-1-1-1 佐賀大学入学者選抜要項（平成 26 年度）

資料 4-1-3-1 入学試験関係委員割振表（平成 25 年度）

資料 4-1-3-2 佐賀大学大学院農学研究科入学試験実施要領（平成 26 年度）

資料 4-1-3-3 大学院入学試験関係委員割振表（平成 26 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

入学者選抜に関わる実施計画等の作成、試験問題の作成、試験の実施、試験の採点及び合格者の決定までの実施体制は、入試委員会を中心に構築されている。関係者間の連携が図られ、意思決定のプ

プロセスと責任は明確かつ公正である。これらのことにより、入学者選抜は、適切な実施体制の下で、公正に実施されている。

農学研究科

入学者選抜に関わる実施体制は、農学部入試委員会の中にある大学院入学試験小委員会を中心に構築されており、組織間の連携も図られ、入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されている。

観点4-1-④： 入学者受入方針に沿った学生の受入が実施に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【観点に係る状況】

農学部

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った入試が実施されているか否かについての検証は、主に、入試委員会の中に設置されている入学者選抜方法小委員会（以下「選抜方法小委員会」という。）が担当している。選抜方法小委員会は、入学者選抜方法に関する調査・研究を行うとともに、個別学力検査等の内容、在り方、改善方策を検討している。また、大学進学情報の提供、入学者選抜に関する大学案内の編集及び広報活動に関する事項についても検討している（資料4-1-4-1）。

農学研究科

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生が入学しているかどうかの検証は、大学院一般選抜及び社会人・外国人留学生特別選抜小委員会、入学試験問題作成委員会並びに各コースにおいて継続的に取り組んでおり、学生の成績や授業評価を参考にして、出願資格及び試験の内容（資料4-1-1-6）や合否判定基準（資料4-1-4-2）について、改善策を継続的に講じてきている。

資料4-1-4-1 入学者選抜方法小委員会議事要旨（平成25年度）

資料4-1-1-6 佐賀大学大学院学生募集要項（平成26年度）

資料4-1-4-2 佐賀大学大学院農学研究科の入学試験合否判定基準

【分析結果とその根拠理由】

農学部

選抜方法小委員会が設置され、入学試験の結果や、高校・高専教員との意見交換等を踏まえ、入学者選抜に関する検証と改善が継続的に行なわれている。改善例としては、農業高校学生への推薦入試に関連したガイダンスの実施や入試科目（英語）の出題範囲の変更等の検討があげられる。

農学研究科

各コース及び入学試験関係委員会において、本研究科のアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入れが行われているかどうか、継続的に検証されており、その結果を入学者選抜の改善に役立てて

いる。具体的には、大学院関係入試小委員会において、各コース間での合格者数の調整、二次試験実施の有無に関する検討等が毎年おこなわれている。

4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。

観点4-2-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。
また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【観点に係る状況】

農学部

過去5年間（平成21～25年）の平均入学定員超過率は、学部1年次入学の場合が1.07倍であり、編入学の超過はない（資料4-2-1-1）。学部の入学定員と在籍学生数は、以下のとおりである。

農学部入学定員と実入学者

学 科	年度	入学定員(a)	実入学者合計(b)	超過率(b/a)
応用生物科学科	21	45	47	1.04
	22	45	50	1.11
	23	45	48	1.07
	24	45	49	1.09
	25	45	49	1.09
生物環境科学科	21	60	69	1.15
	22	60	61	1.02
	23	60	65	1.08
	24	60	61	1.02
	25	60	66	1.10
生命機能科学科	21	40	44	1.10
	22	40	43	1.08
	23	40	43	1.08
	24	40	42	1.05
	25	40	42	1.05

（出典：平成25年度佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要）

農学部編入学の実入学者数

入学定員	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
10	13	9	8	8	7

(出典：平成 25 年度佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要)

農学部の入学定員と在籍学生数（平成 25 年度）

学科	入学定員	在籍学生数			
		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次以上
応用生物科学科	45	49	49	49	60 (1)
生物環境科学科	60	66	63	62 (1)	77 (1)
生命機能科学科	40	42	42	42	45
3 年次編入学	10	—	—	7	8

備考：入学定員は 145 人である。留：留学生（内数）

(出典：平成 25 年度佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要)

農学研究科

研究科の改組に伴い、平成 22 年度から入学定員が 40 人になったが、平成 22 年度から平成 25 年度の専攻別の入学者数は、次のとおりである。本研究科の実入学者数の入学定員に対する割合は、この 4 年間の平均で 1.08 となっており、ほぼ適切な（定員のプラス 30%以下）入学者数となっている。

農学研究科（修士課程）の入学者数（平成 25 年 5 月 1 日現在）

専 攻	入学定員	入学者数			
		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
生物資源科学	40	44(2)	42(2)	50 (2)	37 (2)

(注) () は留学生で内数

(出典：平成 25 年度佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要)

資料 4-2-1-1 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成 25 年度）

【分析結果とその根拠理由】**農学部**

農学部の実入学者数は、入学定員を大幅に超過又は下回っておらず、入学定員と実入学者との関係は適正である。

農学研究科

この 4 年間の農学研究科の入学状況は、実入学者数が入学定員を大幅に超過することなく、また、大幅に下回ってもおらず、入学定員と実入学者との関係は適正である。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部及び農学研究科ともに，入学者受入方針（アドミッション・ポリシー及び入学者選抜の基本方針）が明確に定められ，それに沿って，適切な学生の実入が実施されている。

【改善を要する点】

編入学試験での実入学者数が近年減少傾向にある。質の良い学生の入学を維持するためには，入学定員削減等の検討も必要である。

（３）基準４の自己評価の概要

農学部及び農学研究科では，明確に定められたアドミッション・ポリシー及び入学者選抜の基本方針に基づき，適切な数の学生が，適正な試験制度により入学している。

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<学士課程>

5-1 教育課程の編成・実施方法（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。

観点5-1-①： 教育課程の編成・実施方法（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点到係る状況】

農学部では、佐賀大学の学士課程で学習する学生が、卒業までに身に付ける能力を「佐賀大学 学士力」として定め、この学士力に示した能力を学生に身に付けさせることを目指し、これらに沿いながら教育を行っている。また、農学部教育課程編成・実施の方針として、1. 教育課程の編成、2. 教育の実施体制、3. 教育・指導の方法、4. 成績の評価に分けて明確に定められている。

資料 2-1-1-3 佐賀大学農学部 3つの方針 (http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/housin_nou.pdf)

【分析結果とその根拠理由】

農学部教育課程の編成・実施方法が学科ごとに明確に定められている。

観点5-1-②： 教育課程の編成・実施方針に基づいて、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっているか。

【観点到係る状況】

農学部教育課程の編成・実施方針に基づいて、各学科では、効果的な学習成果をあげるために、教養教育科目と専門教育科目を有機的かつ体系的に配置した4年間の教育課程を編成し、実行している。

これらの教育課程では、佐賀地域に立脚しながら、地球的規模で農学を考えることのできる幅広い視野、高度な専門知識、理解力、実践力等を備えた国際性豊かな人材を育成することを目的とし、その内容、水準は農学士の学位にふさわしいものとなっている。

授業科目区分と農学部の卒業要件

学 科		教養教育科目									小 計	専門教育科目			小 計	合 計
		大 学 入 門 科 目	外国語科目		健康・スポ ーツ科目		情報リ テラシ ー科目		基本 教 養 科 目	イン ター フ ェ ー ス 科 目		専 門 基 礎 科 目	農 学 基 礎 科 目	専 門 科 目		
			英 語	独語 仏語 中国語 朝鮮語	講 義	実 習	講 義	演 習 一								
応 用 生 物 科 学 科		2	4	4	2	2	2	1	12	8	37	4	6	79	89	126
生 物 環 境 科 学 科	生物環境保全学コース	2	4	4	2	2	2	1	12	8	37	4	6	79	89	126
	資源循環生産学コース	2	4	4	2	2	2	1	12	8	37	4	6	79	89	126
	地域社会開発学コース	2	4	4	2	2	2	1	12	8	37	4	6	79	89	126
生 命 機 能 科 学 科		2	4	4	2	2	2	1	12	8	37	8	6	75	89	126

(出典：佐賀大学農学部「履修の手引」)

農学部の教育課程は、教養教育科目と専門教育科目で構成している。卒業するために必要な修得単位数（卒業要件という。）は、3 学科（応用生物科学科、生物環境科学科、生命機能科学科）ともに 126 単位である。内訳は、教養教育科目が 37 単位（大学入門科目が 2 単位、共通基礎科目が 15 単位、基本教養科目が 12 単位、インターフェース科目が 8 単位）、専門教育科目が 89 単位である。専門教育科目の内訳は、専門基礎科目が 4 単位（応用生物科学科、生物環境科学科）又は 8 単位（生命機能科学科）、農学基礎科目が 6 単位（3 学科共通）、専門科目が 79 単位（応用生物科学科、生物環境科学科）又は 75 単位（生命機能科学科）である。

教養教育科目である大学入門科目、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報リテラシー科目を必修とし、専門教育の基盤を形成できるようにしている。

専門教育科目については、専門基礎科目（数学、物理学、化学、生物学）を 1 年前学期に配置することにより、農学部における学修に必要な理数科目の基礎学力を養い、高校教育から大学における専門教育への移行がスムーズに行えるように配慮している。

農学部の中心的な授業科目（コア科目）として、農学基礎科目 5 科目を選定し、1, 2 年生向けに開講している。学生は、3 科目（6 単位）を選択履修（必修）することにより、農学の基本を修得する(資料 5-1-2-1)。

専門科目の必修科目及び選択必修科目（一覧表）

学科		専門基礎科目	農学基礎科目	専門科目
応用生物科学科		化学 生物学		植物生産学，熱帯農業論，遺伝学，応用動物昆虫学，生物統計学，植物育種学，植物病理学Ⅰ，フィールド科学基礎実習Ⅰ，生物学実験，応用化学実験，果樹園芸学，蔬菜園芸学，応用生物学実験，科学英語，生物科学英語，生物情報処理演習，卒業研究
生物環境科学科	生物環境保全学コース	数学，物理学 化学，生物学のうち2科目 4単位	作物生産学，動物資源開発学，土壌学，生物化学，食品流通学のうち3科目 6単位	生物環境保全学概説，資源循環生産学概説，地域社会開発学概説，実験生物環境保全学，科学英語，生物環境保全学演習，卒業研究，実験水気圏環境学
	資源循環生産学コース			生物環境保全学概説，資源循環生産学概説，地域社会開発学概説，栽培技術論，栽培環境制御学，農業生産機械学，環境保全型農業論，フィールド科学基礎実習Ⅰ・Ⅱ，生物科学実験実習，科学英語，卒業研究
	地域社会開発学コース			生物環境保全学概説，資源循環生産学概説，地域社会開発学概説，地域資源論，人間開発論，地域ビジネス開発論，フィールドワーク基礎演習，フィールド科学基礎実習Ⅰ，科学英語，卒業研究
生命機能科学科		数学 物理学 化学 生物学		物理化学，有機化学，分析化学，化学実験Ⅰ，生物有機化学，生化学，生物物理化学，微生物学，生命化学概説，食糧科学概説，食品衛生学，栄養化学，食品化学，分子生物学，生化学実験，化学実験Ⅱ，微生物学実験，科学英語，生物学基礎実験，卒業研究

（出典：佐賀大学農学部「履修の手引」）

応用生物科学科では，専門9科目の講義，科学英語，生物科学英語，生物情報処理演習，フィールド科学基礎実習Ⅰ，生物学実験，応用生物学実験，応用化学実験，卒業研究を必修科目としている。3年前期の始めに行う分野分属の後，各分野の教員が担当する選択科目や実験実習科目を選択，履修する。

生物環境科学科では，生物環境保全学，資源循環生物学，地域社会開発学の3コースを設けており，学生は，2年次前期から各コースに分属する。このため，カリキュラムはコースにより異なる。学科としての必修科目は，各コースが開設する概説，科学英語，卒業研究である。生物環境保全学コースの必修科目は，実験生物環境保全学，実験水気圏環境学と生物環境保全学演習である。資源循環生物学コースの必修科目は，4つの講義科目，フィールド科学基礎実習Ⅰ，Ⅱ並びに生物科学実験実習である。地域社会開発学コースの必修科目は，3つの講義科目，フィールドワーク基礎演習，フィールド科学基礎実習Ⅰである。これらの3コースの学生は，学生実験などを必修科目とするとともに，豊富な選択科目の中から履修科目を選ぶことにより，自主的に履修カリキュラムを作り上げる。

生命機能科学科は，13の講義科目，5つの実験実習科目，科学英語，卒業研究を必修科目としている。カリキュラムの基本的な部分を固定して，生命科学についての基本的な理解を深めさせることにより，有用生物の開発と生物資源の有効利用を図ることができる人材の養成を進めている。

資料 2-1-1-4 農学部履修の手引（平成 25 年度）
 資料 5-1-2-1 農学部授業時間割表（平成 25 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部教育課程の編成・実施方針に基づいて、各学科では、効果的な学習成果をあげるために、教養教育科目と専門教育科目を有機的かつ体系的に配置した4年間の教育課程を編成し、実行している。

これらの教育課程では、佐賀地域に立脚しながら、地球的規模で農学を考えることのできる幅広い視野、高度な専門知識、理解力、実践力等を備えた国際性豊かな人材を育成することを目的とし、その内容、水準は農学士の学位にふさわしいものとなっている。

観点 5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

【観点に係る状況】

農学部は、他学部学生のニーズを満たすために、専門科目の一部を学内開放科目として実施している。他方、農学部学生は、他学部の科目を受講可能であり、修得した単位は、自由科目として卒業要件に加えることができる（資料5-1-3-1）。農学部学生は、単位互換制度に基づいて、他大学で開講される科目を履修できる（例：琉球大学の熱帯農学総合実習など）（資料2-1-1-4）。他方、農学部は、フィールド科学総合実習を附属アグリ創生教育研究センターにおいて毎年実施し、単位互換制度に基づく宿泊実習に他大学の学生を受け入れている。企業や試験場等でのインターンシップを3年前学期に実施し、単位として認定している（資料5-1-3-2）。

専門基礎科目の物理学については、成績不良者に対する補講を実施している（資料 5-1-3-3）。編入学生については、短期大学等で修得した単位を一括して認定し、農学部の卒業要件に算入している（資料 5-1-3-4）。

多様な知的関心をもつ受講生の修学意欲を高め、理解を深めるために教員は、所属学会等における研究の成果を授業内容に組み込んだり、新聞記事など活用して、関係分野における社会的状況を紹介している。

資料 5-1-3-1 学内開放科目一覧（平成 25 年度）
 資料 2-1-1-4 農学部履修の手引（平成 25 年度）
 資料 5-1-3-2 インターンシップ参加者一覧（農学部、平成 25 年度）
 資料 5-1-3-3 補講実績表（平成 25 年度）
 資料 5-1-3-4 佐賀大学学生便覧（平成 25 年度）

【分析結果とその根拠理由】

学内開放科目、単位互換、インターンシップ、専門基礎科目の補講、編入学者への配慮などがなされている。また、授業において、学術の動向や社会的要請との関係が、必要に応じて紹介されている。

これらのことにより、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成及び授業科目の内容となっている。

5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

【観点に係る状況】

農学部並びに各学科の教育目的を達成するために、様々な授業形態を組み合わせ、カリキュラムに沿った教育を実施している（資料5-2-1-1）。

農学部専門科目の授業形態別単位数

学科	コース	講義	演習	実験	卒業研究
応用生物科学科	—	75	2	4	8
生物環境科学科	生物環境保全学	75	2	4	8
	資源循環生産学	77	0	4	8
	地域社会開発学	79	0	2	8
生命機能科学科	—	70	0	11	8

（出典：佐賀大学農学部「履修の手引」）

演習科目の多くは、少人数授業でなされる対話・討論型授業である。フィールド科学基礎実習Ⅰ、Ⅱのようなフィールド型授業や、情報基礎演習Ⅰなどでは、パソコンを利用した授業を実施している（資料2-1-5-1）。農学研究科の大学院生をTAとして採用し、学部学生に対する教育を充実させている。

資料2-1-5-1 佐賀大学オンラインシラバス

(<http://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>)

【分析結果とその根拠理由】

教育の目的に照らして、講義、演習、実験実習の授業形態がバランスよく組み合わせられており、教育目的に応じた適切な学修指導がなされている。

観点5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

【観点に係る状況】

単位の実質化については、量と質の両面において、配慮している。

農学部で開講されているすべての講義、演習、実験・実習は、単位修得に必要な授業時間数を確保している。やむを得ず休講になった場合は、必ず補講又はそれに準ずる対応を実施している。また、単位の実質化を図るために、農学部履修細則で各学期に登録できる授業単位数の上限を定めている（資料 2-1-1-4）。

農学部履修の手引には、カリキュラム表やシラバスなどの教務事項を詳しく記載している。1 年次始めに行うガイダンスなどにおいて、各学科・各コースの履修プログラムについて詳しく説明している（資料 5-2-2-1）。教育委員や教務課職員による個別的な履修指導やメールを活用した相談などにより、適切な履修計画を学生が立てられるようにしている。これらのことを通して、学修目標を明確にし、単位を修得するために必要かつ十分な学修を学生に求めている。また、平成 23 年度入学生からラーニング・ポートフォリオを導入し、学生が自らの学習活動について振り返ることによって、また、チューターの学修指導の一助として、単位の実質化に役立てている。

教員は、オフィスアワーを設定するとともに、メールアドレスを公開している。質問がある学生は、教員と連絡を取り、個人的に指導を受けることができる。研究室に分属した後の学生は、卒業研究の指導教員からマンツーマン指導を受ける体制にしてある。

個人評価における G P A を、平成 18 年度から導入している。G P A は、学修意欲を引き出すために活用している（資料 5-2-2-3）。

資料 2-1-1-4 農学部履修の手引（平成 25 年度）

資料 5-2-2-1 農学部オリエンテーション資料（平成 25 年度）

資料 5-2-2-2 農学部ラーニング・ポートフォリオ実施要項

資料 5-2-2-3 G P A 導入の方針

【分析結果とその根拠理由】

各学期に登録できる授業単位数の上限を定めるとともに、授業時間数の確保の徹底、組織的な履修指導などの、単位の実質化に必要な配慮がなされている。

観点 5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【観点到係る状況】

農学部の教育目的を達成するための教育課程は、農学部教育委員会が検討し、各学科、基本計画委員会並びに農学部教授会における審議を経て決定され、シラバスが作成されている。

教育課程の実践に必要な各教員が担当する授業科目のシラバスは、シラバスの記入フォーマットを使用して作成している。シラバスは、オンラインシラバスとしてインターネットで公開している（資料 5-2-1-1）。教員は、最初の授業でシラバスの内容を説明するとともに、「学生による授業評価」の結果等を利用して、シラバスを改善している（資料 2-1-5-1）。

資料 2-1-5-1 佐賀大学オンラインシラバス

(<http://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>)

資料 5-2-3-1 授業評価実施要領

【分析結果とその根拠理由】

教育課程の編成趣旨に沿ったシラバスが適切に作成及び公開され、授業で活用されている。また、シラバスに記載する事項の改善は、「学生による授業評価」の結果などを利用してなされている。

観点 5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

【観点に係る状況】

学生からの質問や要望に対応するため、教員は、オフィスアワーやメールアドレスを学生に公開している（資料 5-2-4-1）。附属図書館は、学生用の机、パソコン等を整備し、学生が自由に使える体制としている（資料 5-2-4-2）。学生の自主学習のために、総合情報基盤センターや附属図書館のパソコンを自由に使えるようにしている。

農学部は、学生が机、椅子を自由に使えるコミュニケーションスペースを設けている。各研究室では、学生用の空間を整備している。これらを学生が自主学習のために活用している（資料 5-2-4-3）。

基礎学力が不足している学生については、専門基礎科目の物理学で補習授業を実施している（資料 5-1-3-3）。

資料 5-2-4-1 オフィスアワー一覧

(<https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/portalUI/html/shibbolethStart.htm>)

資料 5-2-4-2 附属図書館利用規程

資料 5-2-4-3 農学部建物平面図

資料 5-1-3-3 補講実績表（平成 25 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部の学生のための自主的学習環境は整備され、利用されている。また、基礎学力不足学生への配慮が組織的に行われている。

観点 5-2-⑤： 夜間において授業を実施している課程（夜間学部や昼夜開講制（夜間主コース））を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点5-2-⑥： 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクリーニングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

5-3 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定は適切に実施され、有効なものになっていること。

観点5-3-①： 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点に係る状況】

教育目標に照らして、学生が身に付けるべき具体的学習成果の達成を学位授与の方針とし、明確に定めている。また、学則に定める所定の単位を修得した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与すると明確に定められている。また、さらに詳細に、学科毎に、1. 基礎的な知識と技能、2. 課題発見・解決能力、3. 個人と社会の持続的発展を支える力、に分けて定められている。

資料 5-3-1-1 佐賀大学農学部学位授与の方針 (http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/housin_nou.pdf)

【分析結果とその根拠理由】

教育目標に照らして、学生が身に付けるべき具体的学習成果の達成を学位授与の方針とし、明確に定めている。

観点5-3-②： 成績評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

佐賀大学成績判定等に関する規程が定められ、この規程に準じて、農学部で開講している授業科目の成績評価を実施している。「成績評価の方法」はシラバスに明記し、学生に周知している。成績判定は、授業科目の内容に応じて、定期試験、小テスト、レポート等により行い、成績評価と単位認定を厳格に実施している。卒業認定の要件は、履修細則や農学部履修の手引に明記している。卒業研究については、公開の卒業研究発表会を学科・コース単位で実施するとともに、卒業論文を提出させて、厳格に評価している。卒業認定は、学生が修得した科目の単位数と内訳に基づいて、教育委員会における実務的な検討を経て、教授会で審議し、決定している。

資料 5-3-2-1 佐賀大学成績判定等に関する規程

資料 5-3-2-2 農学部履修細則

資料 2-1-1-4 農学部履修の手引（平成 25 年度）

資料 5-3-2-3 卒業研究発表会 要旨集

【分析結果とその根拠理由】

佐賀大学成績判定等に関する規程などに基づいて、成績評価と単位認定が適切に実施されている。卒業認定は、農学部規則に基づいて、教授会で審議し、決定している。

観点 5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

佐賀大学成績判定等に関する規程に基づいて、成績判定を行っている。試験の答案は、成績判定の妥当性を検証・確認できるように、3ヶ月間保存することとしている。成績評価に異議のある学生は、成績評価の異議申し立てに関する申合せに基づいて、担当教員に申し出ることができる。担当教員との協議によって成績評価に対する疑義が解決されない場合又は担当教員と協議ができない場合には、学部長に申し出ることができる。その場合、教育委員会は調査委員会の調査結果に基づき審議し、学部長に報告し、学部長は教授会の議を経て対応を決定することにより、成績評価の正確性を担保するための組織的な処置を講じている。

資料 5-3-2-1 佐賀大学成績判定等に関する規程

資料 5-3-3-1 農学部における成績評価の異議申し立てに関する申合せ

【分析結果とその根拠理由】

成績判定等に関する規程に基づく成績判定、学生に対する「成績評価の方法」の周知、成績評価に対する異議に対応する制度等により、成績評価の正確性を担保するための組織的な処置を講じている。

観点5-3-④： 学位授与方針に従って卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って卒業認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

農学部学位授与の方針に従って農学部履修細則に卒業認定基準が明記されている。卒業認定の要件は、履修細則や農学部履修の手引に明記し、オリエンテーション等で周知している。教育委員会は学生の単位取得状況を把握し、卒業認定基準にもとづいて卒業認定案を作成し、教授会で審議、決定している。

資料 5-3-2-2 農学部履修細則

資料 2-1-1-4 農学部履修の手引（平成 25 年度）

【分析結果とその根拠理由】

卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って卒業認定が適切に実施されている。

<大学院課程>

5-4 教育課程の編成・実施方針が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。

観点5-4-①： 教育課程の編成・実施方針が明確に定められているか。

【観点に係る状況】

農学研究科の教育目標は、ホームページ（佐賀大学学生センターのウェブサイト、佐賀大学の教育方針についてのページ）上で一般に公開されている。また、各学生に配布される大学院履修案内の中にも、教育研究の理念と目標として明記され、教育委員や指導教員から適時周知されている。

農学研究科は、平成 22 年度に 1 専攻 5 コース（1 副コース）への改組を行い、各コースの教育目的に沿った教育課程の編成と実施方針が以下のように明確に定められている。

教育研究の理念と目的

農学は、21 世紀の我々人類に課された責務として、食糧問題と環境問題を克服し、地球上のあらゆる生物が共に生存し続けるための生命生存に関する科学である。本研究科はそのための学問・研究することを目的としている。本研究科の使命は、近年の科学技術の高度化・情報化・国際化の中で、社会・国際ニーズに応えられる高度な専門知識と技能を持った創造性豊かな農学・生命科学に関する研究者・専門家になる人材を育成することである。

（出典：佐賀大学大学院農学研究科ホームページ）

農学研究科の教育目的と教育課程の編成・実施方針

(教育目的)

佐賀大学大学院農学研究科の教育目的は、科学技術が高度化・多様化・国際化する時代の中で、社会のニーズに応えられる人材、すなわち確固たる専門基礎知識に裏付けられた正しい価値観を基盤とし、冷静かつ柔軟な判断力・行動力を兼ねそなえた創造性豊かな専門職業人になるべき人材を育成することである。

農学研究科唯一の専攻である生物資源科学専攻において育成する人材は、第1に、高い倫理意識と国際性豊かな教養を有し、情報収集・分析能力及び優れたコミュニケーション能力を活かして、企業や社会において能力を発揮できる専門職業人であり、第2に、生物資源の開発と制御、環境保全と持続的農業生産、生命化学と食糧科学、地域社会の持続可能な開発などの分野で、先端的・応用的・実用的な能力を発揮できる高度な専門職業人であり、第3に、高度な農業技術と経営管理能力を有し、中北部九州及びアジアの諸地域における地域農業組織・企業・団体・行政・研究所等の職場で、実行力をもって活躍できる高度な専門職業人である。

(教育課程の編成・実施)

以上のような農学研究科の教育目的を達成するために、本農学研究科には、生物資源科学専攻の1専攻を置き、その中に5つの主コース（応用生物科学コース・生物環境保全学コース・資源循環生産学コース・生命機能科学コース・地域社会開発学コース）と1つの副コース（農業技術経営管理学コース）を設置する。

また、1単位制講義を基本とするサブ・セメスター制度を導入し、柔軟なクロス履修による専門横断的な知識の修得を可能とする教育課程を編成する。専攻共通科目として農学総合講義2単位を必修とし、基礎教育科目5科目（各1単位）から2単位を選択必修とすることにより、農学における基礎的で広い知識も修得できるように配慮する。

さらに、それぞれの主コースに教育研究分野を配慮し、すべての学生はいずれかの教育研究分野に所属し、指導教員のもとで特別研究（必修）を履修する体制を整える。

（出典：平成25年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内）

【分析結果とその根拠理由】

農学研究科の教育目標は、ホームページで一般に公開されるとともに、大学院履修案内等の冊子にも明記され、学生に適時周知されている。

農学研究科では、教育課程の編成・実施方針が明確に定められ、ホームページで公開されるとともに大学院履修案内等で学生に周知している。

観点5-4-②： 教育課程の編成・実施方針に基づいて、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっているか。

【観点に係る状況】

農学研究科の各コースの教育課程は、各コースの教育方針に沿って編成されており、教育目標に対応する科目群を大学院履修案内等で以下のように学生に明確に提示している。

教育課程の編成の一例（生物環境保全学コースの例）

（生物環境保全学コース）

本コースの教育課程は、環境関連分野に関する高度な専門知識を持ち、環境保全、持続的食料生産の為に技術開発及び資源循環型地域社会の構築を行う能力を持つ高度専門職業人等を養成することを目的とする。本コースにおいては、地球レベルから地域レベルに至るまでの様々なスケールで生じている環境問題に対処し、環境に負荷の少ない生物生産環境の創出・保全と豊かな生活環境を創造するため、(1)生物環境保全学分野の幅広い知識と研究手法についての総合的な学習、(2)生物環境保全学分野の高度な研究経験と専門知識の習得、(3)専門的職業人・研究者に必要とされる情報処理能力、分析能力及びプレゼンテーション能力の習得、を教育目標とする。

教育目標 1 に関して、1 年次に必修科目である「専攻共通科目」として「農学総合講義」、「基礎教育科目」として「生物環境保全学特論」を開講している。

教育目標 2 に関しては、「選択科目」として、「利水情報工学特論」、「水資源計画学特論」、「農地環境工学特論」、「農地計画学特論」、「土壌物理学特論」、「先端地水学特論」、「浅海環境工学特論」、「リモートセンシング工学特論」、「生産地盤工学特論」、「土質工学特論」、「環境資源学特論」、「物理探査学特論」、「土地生産機能学特論」、「応用水利学特論」、「植物環境調節学特論」、「先端植物栄養調節学特論」、「環境分析化学特論」を開講している。また、生物環境保全学分野における最先端、かつ多様な研究活動の場を通じて研鑽を積むことを目標に「特別研究」が開講されている。

教育目標 3 に関して、学生同士が切磋琢磨する環境の中で、自ら研究課題を設定し研究活動を実施することなどの想像力、自立力などを磨く教育として、「特別研究」及び「生物環境保全学演習」を開講している。

（出典：平成 25 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内）

資料 2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内（平成 25 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学研究科においては、最新の学問分野に関する授業科目である「特論」と、専門職業人への人材育成を目指す「演習」や「特別研究」をバランスよく配置し、さらに各コースの教育目的に沿った履修モデルを学生に提示していることから、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっている。

観点5-4-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

【観点に係る状況】

農学研究科の教員は、学会などに毎年複数回参加し、最新の研究動向を入手し、担当授業科目の中で自分の研究とともに自ら属する専門分野の今後の発展動向などを紹介している。また、多様なニーズを持つ学生を教育する一環として、修了要件である30単位中10単位を指導教員と相談の上、他専攻や他研究科が開講する科目を履修することができる制度（資料2-1-3-2）を設けている。

また、社会的な要求から夜間開講の体制を整備し、社会人の受入れを可能にしている（資料2-1-3-2）。本修士課程修了者は、鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程に進学可能であり（資料2-1-3-2）、佐賀大学大学院農学研究科の修了生に限り、入学検定料を免除している。また、進学者にはスムーズに博士課程に入れるよう教育研究の指導をしている。さらに、留学制度（資料5-1-3-4）については、大学間学術交流協定を締結している諸外国の大学間で実施している。

平成22年度の大学院改組に伴い、農学研究科では副コースとして農業技術経営管理学コースを設置した。この副コースは、高度な農業技術と経営管理能力を有する人材の育成を目的とする実践的な教育カリキュラム（農業版MOT教育）からなり、農業法人や法人化を志向する集落営農組織等における中核的経営者、農政や農業団体における営農指導者、農業関連分野に新規に参入する企業等における指導的立場で働く企業人及びアジアの諸地域におけるアグリビジネス産業の発展に寄与できる人材等の育成を目指すプログラムとなっている。この教育プログラムを修了することによって、農学修士に加えて「佐賀大学農業技術経営管理学コース」の修了証及び農業技術経営管理士の称号が授与され、学生に対する多様な教育の提供と地域社会からのニーズ、学術の発展に応えるものとなっている。

農業技術経営管理学コースの修了要件と修了証及び称号の授与

この教育プログラムでは、経済学研究科の所定の授業科目を含む講義・演習・インターンシップ科目11単位と、インターンシップを含む修了研究4単位の合計15単位以上の取得によって、修士（農学）に加えて「佐賀大学農業技術経営管理学コース」の修了証及び農業技術経営管理士の称号が授与される。

（出典：平成25年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内）

資料2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内（平成25年度）

資料5-1-3-4 佐賀大学学生便覧（平成25年度）

【分析結果とその根拠理由】

自分の研究成果や専門分野の研究動向を授業科目に密接に反映させ、かつ他専攻や他研究科開講科目を履修する制度、留学制度、博士課程への進学優遇制度、夜間開講制度などを設けている。また、平成22年度からは経済学研究科と連携した副コースも設置する等、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮している。

5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。

観点5-5-①： 教育の目的に照らして、講義、演習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

【観点に係る状況】

農学研究科では、平成22年度の改組に伴い、カリキュラム編成においても1単位制講義を基本とするサブ・セメスター制度を導入し、柔軟なクロス履修による専門横断的な知識の修得を可能とした。また、専攻共通科目として農学総合講義2単位を必修とし、基礎教育科目5科目（各1単位）から2単位を選択必修とすることにより、農学における基礎的で広い知識も修得できるように配慮した。各コースでは、標準履修モデルを作成し、学生に周知することにより体系的な履修が行われるよう配慮されている。

農学研究科のコース標準履修モデルの一例（生命機能科学コース）

【生命機能科学コース】履修モデル

	専攻共通科目 (必修)	基礎教育科目 (選必)	選択科目				特別研究 (必修)	単 位 数
			コース 必修科目	コース 選択科目		自由選 択科目		
2 年後期 B				生命化学演習 食糧化学演習			特別研 究	
2 年後期 A								
2 年前期 B								
2 年前期 A								
1 年後期 B			先端分析化 学特論Ⅱ		糖鎖工学特論			
1 年後期 A					食品化学特論			
1 年前期 B	農学総 合講義	生命機 能科学 特論	先端分析化 学特論Ⅰ		インターンシップⅠ タンパク質科学特論 微生物学特論 食糧流通貯蔵学特論			
1 年前期 A		応用生 物科学 特論			生化学特論 応用微生物学特論			
修了要件 単位数	2	2	4	4	8	0	10	30

（出典：平成25年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内）

各コースの標準履修モデルに沿って、それぞれのコースの教育目標に適した科目が体系的に配置、開講されている。大学院では、最新の学問分野に関する授業科目を「特論」として広く配置し、「特別研究」もバランスよく配置され、それぞれの研究テーマを通じて創造性に富んだ高度な科学技術・専門知識を持った専門職業人を養成する内容となっている（資料 2-1-3-2）。

すなわち、各コースの開講科目中、学生が所属する講座の特別研究（10 単位）及び指導教員の指導による授業科目を合わせて 30 単位以上を履修することとし、各専攻の全ての履修モデルは、1 年前期に 12～13 単位、後期に 10～13 単位修得できるようにバランスよく開講している（資料 2-1-3-2）。

農学研究科の履修方法

- ① 開講授業科目中、専攻共通科目 2 単位、基礎教育科目から 2 単位以上及び専門科目のうちコース毎にコース必修科目（特別研究 10 単位を含み、生命機能科学コースにあつてはコース選択必修科目 2 単位以上を含む。）を含む 26 単位以上、計 30 単位以上を履修しなければならない。
 - ② その他指導教員が必要と認め、履修願を提出の上履修した他コース及び他研究科等の授業科目については、10 単位を限度として前項の 30 単位の中に含めることができる。
- | | |
|------------|-------------------------------------|
| 所属コースの特別研究 | 10 単位 |
| 専攻共通科目 | 2 単位 |
| 基礎教育科目 | 2 単位以上 |
| 所属コースの科目 | 16 単位以上（他コース及び他研究科等の授業科目 10 単位を含む。） |
| 合 計 | 30 単位以上 |

（出典：平成 25 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内）

また、履修手続きは、ウェブ（資料 5-5-1-1）による履修登録としている。本研究科の演習、実験、実習は基本的にすべて少人数教育であり、演習科目では対話・討論型授業やフィールド型授業を実施し、学習指導に関する工夫をしている。

資料 2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内（平成 25 年度）

資料 5-5-1-1 佐賀大学ホームページ（Live Campus）

<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/livecampus.html>

【分析結果とその根拠理由】

研究科では、各コースで履修モデルを示し、それぞれの特性に応じて講義、演習、実験、実習等をバランス良く配置し、少人数教育、対話・討論型授業、フィールド型授業など目的に応じた学習指導の多様な工夫が凝らされていることから、教育の目的に照らして授業形態の組合せ・バランスは適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点5-5-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。**【観点に係る状況】**

農学研究科では、カリキュラム編成（資料5-5-2-1）において、無理のない十分配慮された授業時間配置をとっている。大学院生には、入学時に大学院教育小委員会委員による履修に際してのオリエンテーションを受けさせるとともに、指導教員の指導のもとに研究テーマを設定し、その研究内容に適した履修計画を策定させている（資料2-1-3-2）。

また、学生の授業科目選択の参考として大学院履修案内に講義概要（資料2-1-3-2）を、オンラインシラバス（資料5-5-1-1）に授業計画、成績評価基準を記載している。

平成20年度からは、学生の学業成績にGPAを採用し（資料5-1-3-4）、試験の解答例等を学生へ提示すること、答案・レポート等の閲覧ができることなどもオンラインシラバスで周知している（資料5-5-1-1）。

資料5-5-2-1 大学院農学研究科授業時間割表（平成25年度）

資料2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内（平成25年度）

資料5-5-1-1 佐賀大学ホームページ（Live Campus）

（<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/livecampus.html>）

資料5-1-3-4 佐賀大学学生便覧（平成25年度）

【分析結果とその根拠理由】

カリキュラム編成において、十分配慮された授業時間配置をとっており、大学院小委員会委員や指導教員がきめ細かい履修指導をしている。また、試験の解答例等の提示、答案・レポート等の閲覧などを開始し、平成20年度からは、学生の学業成績にGPAを採用したことなどから、単位の実質化への配慮が適切になされている。

観点5-5-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。**【観点に係る状況】**

全科目のシラバスは、本学共通のシラバス作成要領に従って作成され、オンラインシラバスとして、ホームページに掲載している（資料5-5-1-1）。このシラバスには、担当教員名・授業科目名・開講学期・開講曜日・時限などに加えて、授業計画・履修上の注意・成績評価の方法と基準・教科書・参考書・オフィスアワーを記しており、学生が授業科目を選択する上での適切な内容となっている。

大学院生は、入学時に配布する大学院履修案内（資料2-1-3-2）に掲載されている授業科目概要及び履修モデルと、オンラインシラバスにある詳しい授業内容を参考にしながら、受講科目を決めることができる。

平成25年度の農学研究科「前期」と「後期」全科目のシラバスの利用に関するアンケート結果の平均（資料3-2-2-7）によると、シラバスは学習する上で役に立っているかについては、分からないを除

いた否定的意見（1 および 2）は 4.1%と少なく、肯定的意見（4 および 5）が 63.2%と高い。また、授業内容はシラバスに沿っているかについても、分からないを除いた否定的意見（1 および 2）は 2.3% 少なく、そう思うとする肯定的意見（4 および 5）が 65.6%と良好であり、シラバスも授業内容の重要な情報源となっていることがうかがえる。

シラバスは学習する上で役に立っているかのアンケート調査

該当しない, 分からない (0)	全くそうは思 わない (1)	そうは思わな い (2)	どちらともい えない (3)	そう思う (4)	全くそのとお りだと思う (5)	合計
16.5%	0.0%	4.1%	16.2%	32.8%	30.4%	100.0%
平均 3.40, 標準偏差 1.50						

（出典：平成 25 年度佐賀大学 LiveCampus 授業評価アンケート結果）

授業内容はシラバスに沿っているかのアンケート調査

該当しない, 分からない (0)	全くそうは思 わない (1)	そうは思わな い (2)	どちらともい えない (3)	そう思う (4)	全くそのとお りだと思う (5)	合計
16.6%	0.0%	2.3%	15.5%	34.0%	31.6%	100.0%
平均 3.45, 標準偏差 1.50						

（出典：平成 25 年度佐賀大学 LiveCampus 授業評価アンケート結果）

資料 5-5-1-1 佐賀大学ホームページ（Live Campus）

（<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/livecampus.html>）

資料 2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内（平成 25 年度）

資料 3-2-2-7 佐賀大学ホームページ（Live Campus 授業評価）

【分析結果とその根拠理由】

大学院履修案内にカリキュラム表、授業科目概要及び履修モデルが掲載されるとともに、オンラインシラバスにおいて詳細な各教科のシラバスが公開され、学生はこれらを参考にしながら授業科目の選択、授業内容の確認、試験情報の確認を行うなどその活用がされている。

観点 5-5-④： 夜間において授業を実施している課程（夜間大学院や教育方法の特例）を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

大学院においては、企業等に在職のまま入学を希望する社会人に対して、入学後も社会人が学びやすいように大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例措置を実施している。希望者には、指導教員の指導により、履修方法や授業等の実施時間帯等の履修計画を立てさせるようにしている。また、特例による夜間の授業時間は第1時限 18:00～19:30 とし、14 単位までを課程修了に必要な単位数 (30 単位) に含めることができるように配慮している (資料 2-1-3-2)。

また、平成 22 年度の大学院改組に伴い設置した副コース (農業技術経営管理学コース) では、社会人が主対象であるため、社会人が受講する科目は夜間又は集中で開講する配慮を行っている。また、開講科目は 1, 2 年時にバランスよく配置され、社会人の履修に無理のない体系となっている。

副コース (農業技術経営管理学コース) の授業科目

科目 区分	コ ー ス	授 業 科 目	単 位 数	担当教員	毎 週 授 業 時 数								備 考	
					24 年 度				25 年 度					
					前期		後期		前期		後期			
					前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半		
副コース（農業技術経営管理学コース）専門科目		(農業技術経営管理学コース)												
	経 営 管 理 部 門	農産物市場流通特論	1	白 武 義 治		2				2				
		農業政策学特論	1	小 林 恒 夫			2				2			
		農業経営学特論	1	(未 定)										
		農村地理学特論	1	五十嵐 勉	2				2					
		地域資源開発学特論	1	(未 定)										
		農村社会学特論	1	藤 村 美 穂	2					2				
		アジア農村開発学特論	1	(未 定)										
		国際環境保健学特論	1	稲 岡 司	2					2				
		マーケティング特論Ⅰ	1	(未 定)	2									
		マーケティング特論Ⅱ	1	(未 定)		2								
		経営分析特論Ⅰ	1	山 下 寿 文			2							
		経営分析特論Ⅱ	1	山 下 寿 文				2						
		知的財産と法特論Ⅰ	1	(未 定)							2			
		知的財産と法特論Ⅱ	1	(未 定)								2		
		農業経済研究特論Ⅰ	1	品 川 優					2					
		農業経済研究特論Ⅱ	1	品 川 優						2				
	管理会計特論Ⅰ	1	小 川 哲 彦							2				
	管理会計特論Ⅱ	1	小 川 哲 彦								2			
	生 物 管 理 部 門	熱帯農業資源学特論	1	野 瀬 昭 博	2				2					
		動物繁殖生理学特論	1	山 中 賢 一				2				2		
		果樹育種学特論	1	松 本 亮 司	2				2					
		蔬菜花卉園芸学特論	1	一 色 司 郎			2				2			
		植物感染病学特論	1	草 場 基 章		2				2				
		植物病学特論	1	大 島 一 里			2				2			
	環 境 管 理 部 門	線 虫 学 特 論	1	吉 賀 豊 司	2				2					
		利水情報工学特論	1	原 口 智 和	2				2					
		農地計画学特論	1	近 藤 文 義		2				2				
		土地生産機能学特論	1	(未 定)										
		植物環境調節学特論	1	井 上 興 一	2				2					
		土壌物理学特論	1	長 裕 幸			2				2			
		リモートセンシング工学特論	1	未 定										
		生産地盤工学特論	1	宮 本 英 揮										
	生 産 管 理 部 門	施設農業生産学特論	1	田 中 宗 浩	2				2					
		応用植物生理学特論	1	鈴 木 章 弘				2				2		
		作物生産生理学特論	1	鄭 紹 輝	2				2					
		雑草生態学特論	1	(未 定)										
		家畜管理学特論	1	尾 野 喜 孝				2				2		
		作物生態学特論	1	有 馬 進				2				2		
		生産情報処理学特論	1	稲 葉・北 垣	2				2					
		農用先端機械学特論	1	廣 間・稲 葉				2				2		
		生産生態学特論	1	上 埜 喜 八			2				2			
		土 壌 学 特 論	1	染 谷 孝 老	2				2					

食品管理部門	ウイルス学特論	1	神田 康三		2				2			
	微生物学特論	1	小林 元太		2				2			
	食糧流通貯蔵学特論	1	藤田 修二		2				2			
	食品科学工学特論	1	林 信行	2				2				
	食品化学特論	1	光 富勝			2				2		
	食品機能学特論	1	(未定)	2				2				
	修了研究（研究指導）	4						2	2	2	2	

備考： は主コースの専門科目と同一

（出典：平成 25 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内）

資料 2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内（平成 25 年度）

【分析結果とその根拠理由】

大学院では、社会人学生の希望があれば指導教員の指導により、特例による夜間の授業を実施し、夜間開講科目 14 単位までを課程修了に必要な単位数に含めるなど、社会人学生に配慮した適切な時間割の設定がなされ、適切な指導が行われている。また、社会人が多く履修する副コースにおいては、夜間や集中で科目を開講する等配慮されたカリキュラムとなっている。

観点 5-5-⑤： 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクリーニングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

【観点到係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点 5-5-⑥： 専門職学位課程を除く大学院課程においては、研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る指導の体制が整備され、適切な計画に基づいて指導が行われているか。

【観点到係る状況】

学生ごとに所属研究室と指導教員を定め、研究テーマに関する打合せを行い、研究指導実施計画書（資料 5-5-6-1）を作成し、それに基づき研究指導を実施している（資料 2-1-3-1）。適宜、研究の中間報告会を実施し、複数の教員により、各学生の研究に対する助言、指導を行っている。論文執筆に当たっては、学位論文の審査委員となった複数の教員（副査として 2 人以上）の指導を受けている（資料 5-5-6-2）。

修士論文に係る評価基準は、大学院履修案内（資料 2-1-3-2）とオンラインシラバス（資料 5-5-1-1）に明記するとともに、大学院履修案内を学生全員に配布し、さらに、入学時及び初回授業時にガイド

ンスを実施し、周知している。

修士論文及び最終試験の評価は、主査（1人）及び副査（2人以上）の教員が行い、「修士論文および最終試験の評価基準」（資料 2-1-3-2）に基づき、提出論文の内容、学位論文発表会での発表及び質疑応答内容などにより、各教員が100点満点の採点制により、その平均点において、60点以上を合格としている。

資料 5-5-6-1 研究指導の実施に関する報告書

資料 2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内（平成 25 年度）

資料 5-5-6-2 研究科委員会資料（平成 25 年度 農学部事務局：修士指導・審査教員氏名一覧表）

資料 5-5-1-1 佐賀大学ホームページ（Live Campus）

(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/livecampus.html>)

【分析結果とその根拠理由】

研究指導、論文執筆、論文発表は、それぞれの専攻における複数の指導教員により常時、計画的かつ適切に行われていることから、教育課程の趣旨に沿った研究指導、学位論文に係る指導の体制が整備され、適切な計画に基づいて指導が行われている。

学位論文に係る評価基準は、入学時や授業開始時のガイダンスなどにより周知され、学位論文の審査については学位審査細則に基づき、厳格に実施されており、適切な審査体制が整備され、機能している。

5-6 学位授与方針が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、修了認定が適切に実施され、有効なものになっていること。

観点 5-6-①： 学位授与方針が明確に定められているか。

【観点に係る状況】

農学研究科では、以下のような学位授与の方針が明確に定められ、ホームページで公開するとともに、大学院履修案内等で学生に周知している。

農学研究科の学位授与の方針

佐賀大学大学院農学研究科の教育目的に沿った知識・技能を修得し、以下に示した学生が身につけるべき具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。

この方針に従って教育課程を編成・実施し、佐賀大学大学院農学研究科履修細則に定められた所定の単位を修め、修士論文審査に合格した者に対して修士（農学）の学位を授与する。

- 1 高い倫理意識と国際性豊かな教養を有し、情報収集・分析能力及び優れたコミュニケーション能力を活かして、企業や社会において指導的立場で能力を発揮できる力を身につけている。

- 2 生物資源の開発と制御，環境保全と持続的農業生産，生命化学と食糧科学，地域社会の持続可能な開発などの分野で，先端的・応用的・実用的な能力を身につけている。
- 3 中北部九州及びアジアの諸地域における地域農業組織・企業・団体・行政・研究所等の職場で，実行力をもって活躍できる力を身につけている。

(出典：佐賀大学学生センターホームページ)

【分析結果とその根拠理由】

農学研究科では，学位授与の方針が明確に定められ，ホームページで公開するとともに，大学院履修案内等で学生に周知していることから，適切に実施されている。

観点5-6-②： 成績評価基準が組織として策定され，学生に周知されており，その基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

各授業の成績評価基準，修士論文，最終試験の評価基準及び修了認定基準は，大学院履修案内（資料 2-1-3-2）とオンラインシラバス（資料 5-5-1-1）に明記するとともに，大学院履修案内を学生全員に配布し，特に，成績評価基準については入学時及び各教員の初回授業時にガイダンスを実施し，周知している。

研究科の修了認定は，修了認定基準及び最終試験の評価基準に基づき，最初に提出論文の内容，学位論文発表会での発表及び質疑応答内容などにより，厳格に評価し，次に学位論文の単位を含めた修得単位数をもとに各専攻で修了認定審査を行い，さらに大学院教育小委員会で審議後，最終的には研究科委員会（資料 5-6-2-1）において認定を行っている。

資料 2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内（平成 25 年度）

資料 5-5-1-1 佐賀大学ホームページ（Live Campus）

(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/livecampus.html>)

資料 5-6-2-1 研究科委員会議事録（平成 25 年度 農学部事務局：大学院修了認定資料）

【分析結果とその根拠理由】

成績評価基準及び修了認定基準は，大学院履修案内やオンラインシラバスに明記するとともに，入学時及び初回授業時にガイダンスを実施し，学生全員に周知している。また，研究科の修了認定は，修了認定基準及び最終試験の評価基準に基づき，厳格に評価し，修了認定を行っており，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されている。

観点5-6-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

成績評価等の正確さを担保するための措置として、平成20年度から学業成績にGPA(資料5-1-3-4)を採用し、さらに教員による成績評価判定資料の保管、学生に対する試験の解答例等の提示、答案・レポート等の閲覧などを開始した(資料2-1-5-1)。また、成績の厳格評価の結果として生ずることが予測される学生からのクレームへの対応のために、「成績評価の異議申立てに関する要項」(資料2-1-1-4)を平成18年度に定めた。

資料5-1-3-4 佐賀大学学生便覧(平成25年度)

資料2-1-5-1 佐賀大学オンラインシラバス

【分析結果とその根拠理由】

平成20年度から学業成績にGPAを採用し、さらに成績評価判定資料の保管、学生に対する試験の解答例等の提示、答案・レポート等の閲覧などを開始しており、成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられている。

観点5-6-④： 専門職学位課程を除く大学院課程においては、学位授与方針に従って、学位論文に係る評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、適切な審査体制の下で、修了認定が適切に実施されているか。また、専門職学位課程においては、学位授与方針に従って、修了認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、修了認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

修士論文に係る評価基準は、大学院履修案内(資料2-1-3-2)とオンラインシラバス(資料5-5-1-1)に明記するとともに、大学院履修案内を学生全員に配布し、さらに、入学時及び初回授業時にガイダンスを実施し、周知している。

修士論文及び最終試験の評価は、主査(1人)及び副査(2人以上)の教員が行い、「修士論文および最終試験の評価基準」(資料2-1-3-2)に基づき、提出論文の内容、学位論文発表会での発表及び質疑応答内容などに基づき、各教員の100点満点の採点制により、その平均点において、60点以上を合格としている。

資料2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内(平成25年度)

資料5-5-1-1 佐賀大学ホームページ(Live Campus)

(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/livecampus.html>)

【分析結果とその根拠理由】

学位論文に係る評価基準は、入学時や授業開始時のガイダンスなどにより周知され、学位論文の審

査については学位審査細則に基づき、厳格に実施されており、適切な審査体制が整備され、機能している。

(2) 優れた点及び改善を有する点

【優れた点】

農学研究科では、平成 22 年度の組織改組に伴い、経済学研究科とも連携した副コースを設置し、広く社会からの要望に応える教育課程を編成している。

平成 23 年度農学部入学生からラーニング・ポートフォリオを導入し、学生が自らの学習活動について振り返ることによって、また、チューターの学修・生活指導の一助として、単位の実質化に役立っている。

資料 5-5-1-2 大学院教育小委員会議事録（平成 25 年度 農学研究科事務部）

【改善を要する点】

特になし

(3) 基準5の自己評価の概要

農学部及び農学研究科では、教育課程の編成・実施方法（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されている。また、学位授与方針も明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定、修了認定が適切に実施されており、その内容、水準が授与される学位名においても適切である。

基準6 学習成果

(1) 観点ごとの分析

6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。

観点6-1-①：各学年や卒業（修了）時等において学生は身に付けるべき知識・技能・態度等について、単位修得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点到係る状況】

農学部

農学部教育委員会は、各学年終了時及び卒業時まで身に付ける学力や能力、資格取得の状況、あるいは卒論、修論の内容・水準を検討し、教育の成果や効果を確認している（資料 6-1-1-1）。履修放棄者を除いた専門科目の単位修得率は高く、演習・実験・実習ではほぼ 100% で、講義形態の科目では約 93% である。

専門科目の授業形態別単位修得率（平成 25 年度）

講 義	演 習	実験実習
92.6%	99.9%	99.7%

備考：数値は、受講者数に対する単位修得者の割合を示す。履修放棄者は除く。

（出典：教務情報システム成績管理データ）

農学部における教育において最も重要な科目と位置付けている卒業研究は、指導教員によるマンツーマンに近い指導を受けながら実施されており、大きな教育効果が得られている。

農学研究科

次の表は、平成 21～25 年度における、大学院生等が関係した研究成果（学会発表及び研究論文数）である。大学院生の在籍者数は各年度 40 人（定員）内外であり、従前は概ね大学院生の 1 人が毎年学会発表を行い、2 人に 1 人が論文を発表し、大学院生の研究活動は活発であった。

しかし、平成 21 年度から業績の入力システムが学部単位から全学単位に変わり、平成 22 年度は、平成 20 年度以前の水準に戻ったものの、平成 23 年度以降は極端に低下している。これは教員のウェブ入力率の低下が原因と思われ、強力な入力の徹底を促す工夫が必要である。

大学院修士学生の学会発表・論文発表数

区分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
学会発表数（回）	45	70	30	26	7
論文発表数（件）	16	28	8	11	21

注：論文発表数は、学生が学術雑誌（紀要，論文集等も含む。）に発表したもの（査読中・投稿中のものは除く。）

また、修士の学位に関する厳格な審査（資料 6-1-1-1）を行っている中で、平成 25 年度における全在籍者数に対する修了者の割合（修了率）は、92%（49 人／53 人）であり、平成 24 年度入学生の修了率は 96%（47 人／49 人）と高く、教育の成果は上がっている。平成 21～24 年度の 4 年間の修了率も合計で 86～96%と良好である。

平成 25 年度農学研究科修了者数（平成 26 年 3 月 24 日付け）

専攻・コース		入学年度			在籍者数			修了予定者数			留年者数		
		23 年入学	24 年入学	計	23 年入学	24 年入学	計	23 年入学	24 年入学	計	23 年入学	24 年入学	計
生物資源 科学専攻	応用生物科学コース	1	13	14	0	12	12	1	1	2			
	生物環境保全学コース	1	6	7	1	6	7	0	0	0			
	資源循環生産学コース	0	16	16	0	16	16	0	0	0			
	地域社会開発学コース	0	3	3	0	3	3	0	0	0			
	生命機能科学コース	2	11	13	1	10	11	1	1	2			
合 計		4	49	53	2	47	49	2	2	4			

（出典：農学研究科委員会資料（平成 26 年 3 月 5 日））

農学研究科における年度別修了率（平成 25 年 5 月現在）

専 攻	平成 21 年度			平成 22 年度			平成 23 年度			平成 24 年度		
	在籍者数	修了者数	修了率	在籍者数	修了者数	修了率						
生物生産学専攻	29	27	93%	20	17	85%						
応用生物科学専攻	28	24	86%	24	21	88%						
生物資源科学専攻							42	39	93%	49	47	96%
合 計	57	51	89%	44	38	86%	42	39	93%	49	47	96%

（出典：教務課大学院係記録）

平成 22 年度の大学院改組に伴い、新しく設置した副コース（農業技術経営管理学コース）には、社会人を対象とした講座（農業技術経営管理士育成講座）に 6 人、2 年次在籍学生を対象としたプログラム（農業技術経営管理者育成プログラム）に 8 人の受講者があり、農業技術経営管理士育成講座及び農業技術経営管理者育成プログラムともに各 1 人を除く全員論文審査を含む単位を修得して修了している。

これら大学院の各教育カリキュラムにおける良好な修了率から学習効果は上がっていると判断される。

平成 25 年度副コース修了者数（平成 26 年 3 月 5 日付け）

講座・プログラム	在籍者数	修了者数
農業技術経営管理士養成講座	6	5
農業技術経営管理者養成プログラム	8	7
合計	14	12

（出典：農学研究科委員会資料（平成 26 年 3 月 5 日））

資料 6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成 21, 22, 23, 24 年度）

資料 2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内（平成 25 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

単位修得率並びに卒業研究の内容から、教育の成果は上がっていると判断される。

農学研究科

年度毎の学会発表数や論文発表数から、少なくとも大学院生の 1 人は学会で発表しており、2 人に 1 人は論文を雑誌に発表している。また、厳格な修了条件の中で、平成 22 年度から設置した副コースを含め、修士課程の過去 5 年間の修了率は良好であることから、教育の成果や効果が上がっていると判断される。

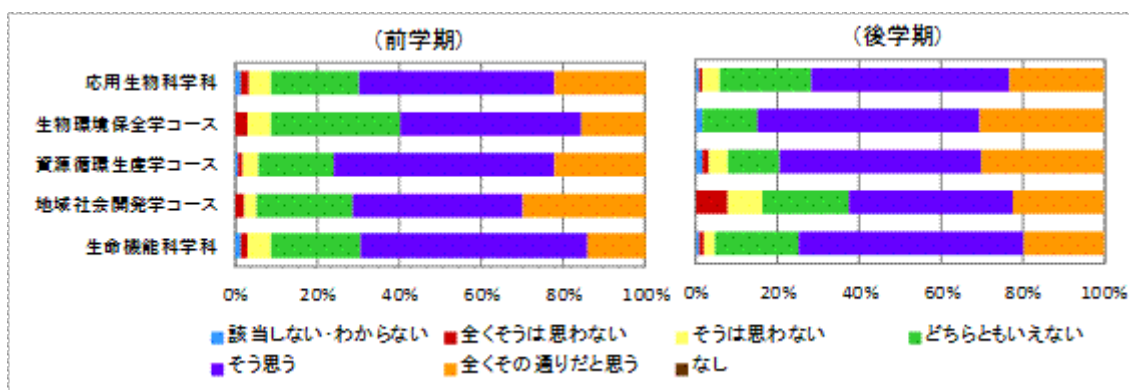
観点 6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

農学部

大学教育委員会が行っている授業評価（資料 3-2-2-7）の結果では、各学科・コースともに授業の満足度は、70%以上と高い満足度となっている。卒業・修了予定者アンケートについても、専門基礎科目で 66%、専門必修科目で 71%、専門選択科目で 67%の満足度となっている。（資料 6-1-2-1）

この科目を受講してみて、満足が得られたかどうかに関するアンケート調べ



(出典：平成 25 年度佐賀大学授業評価・改善に関する報告書)

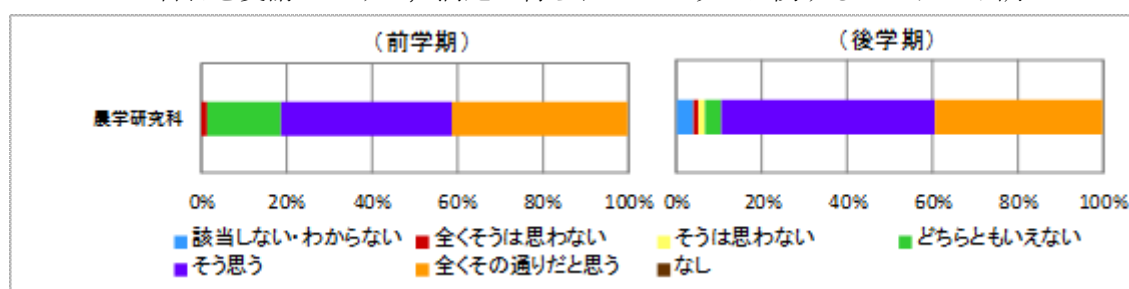
農学研究科

農学研究科の理念、目的に沿った教育成果や効果が十分上がっているかについては、大学院生による授業評価、修了生を対象としたアンケート調査及び学生対象アンケート調査などを通じて、評価を行っている。

大学教育委員会が行っている授業評価（資料 3-2-2-7）において、授業を聞いて興味が増したとする大学院生は 86%あり、また授業の満足度については、前年度同様、肯定的意見が 80%以上で高水準を維持しており、概ね教育の効果が上がっていると判断される。

さらに、修了（予定）者を対象としたアンケート調査（資料 6-1-2-1）では、農学研究科が教育効果を期待する項目について、多くの項目でややできた・かなりできたとする比率の合計が多くの項目で 60%を超えるが、就職に結びつく技能、語学力、創造性などが、あまり修得できていない、わからないと判断をしている学生が多く、この対応を今後検討する必要がある。

この科目を受講してみて、満足が得られたかどうかに関するアンケート調べ



(出典：平成 25 年度佐賀大学授業評価・改善に関する報告書)

平成 25 年度農学研究科修了者におけるアンケート調査（回収率 24.5%，12/49 人）

（％）

項目	まったくできなかった	あまりできなかった	どちらともいえない	ややできた	かなりできた	合計
専門的な知識と技能	10.0	10.0	0	70.0	10.0	100
就職に結びつく技能	20.0	10.0	20.0	40.0	10.0	100
分析し批判する能力	9.1	9.1	0	63.6	18.2	100
社会に適応する能力	10.0	20.0	0	50.0	20.0	100
コミュニケーション能力（対人関係）	0	9.1	9.1	45.5	36.4	100
コミュニケーション能力（語学力）	9.1	18.2	36.4	27.3	9.1	100
プレゼンテーション技術	0	9.1	18.2	54.5	18.2	100
ディベート（議論・討論）の能力	9.1	18.2	0	72.7	0	100
資料や報告書を作成する能力	9.1	9.1	9.1	45.5	27.3	100
創造性	10.0	20.0	30.0	30.0	10.0	100
一般教養	9.1	36.4	27.3	18.2	9.1	100
異文化理解	9.1	0	45.5	18.2	27.3	100
研究能力	9.1	9.1	9.1	63.6	9.1	100
課題を探究する能力	9.1	9.1	18.2	54.5	9.1	100
問題を解決する能力	0	20.0	10.0	60.0	10.0	100

（出典：平成 25 年度佐賀大学学生調査報告書）

資料 3-2-2-7 学生による授業評価の実施に関する報告書（平成 25 年度）

(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/hyoka.html>)

資料 6-1-2-1 佐賀大学学生対象調査報告書（平成 25 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

授業評価アンケートや卒業・修了予定者アンケートの結果から、授業に対する満足度は比較的高く、ほとんどの学生が大学生活を通して専門的な知識や技能を修得できたと回答していることから、教育の成果や効果が上がっていると判断される。

農学研究科

大学院生による授業評価、修了生に対するアンケート調査等から判断して、教育の成果や効果は概ね上がっている。

6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。

観点6-2-①： 就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

農学部

卒業生の進路は、経済状況（景気）の影響を受ける面があるが、総合科学である農学部の特徴を反映して、公務員、JA、食品、化学工業など、様々な分野へ進出しており、農学部卒業生の過去6年の就職率は上昇している。

農学部卒業生の就職率

区 分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
農学部卒業生	94.8%	89.0%	97.8%	95.5%	98.0%	99.0%

（出典：平成25年度佐賀大学キャリアセンター就職統計）

農学研究科

就職や進学といった進路状況等について、農学研究科は就職委員会を組織して、現状を定量的に把握し、教育成果や効果を調査している。平成25年度の修了生の就職率は、82.0%であり、比較的良好で、昨今の就職難の環境にあっても高い就職率をあげている。また、進学者は4人（修了生全体50人の8%）と進学率増加の傾向が認められる。

また、専攻が意図している人材像に学生が近づいているという意味（履修モデルを推奨）では、就職者のほとんどが専門分野に就職していることから、専門職業人の養成に関する教育の成果や効果が上がっていると判断される。

修了生の進学及び就職状況

年 度	修了生数	進学者	就職者	その他
22	40	10	27	2
23	45	4	33	8
24	41	1	33	7
25	50	4	41	4

（出典：平成25年度佐賀大学キャリアセンター就職統計）

平成25年度農学研究科修了生の就職先

産業分類	生物資源科学専攻	合 計
農業、林業	4	4
建設業	0	0
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	11	11

化学工業・石油・石炭製品等製造業	2	2
鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	1	1
その他の製造業	1	1
卸売業	0	0
情報通信業	3	3
運輸、郵便業	1	1
小売業	2	2
学術研究，専門・技術サービス業	2	2
教育，学習支援業	3	3
複合サービス事業	5	5
地方公務	6	6
総 計	41	41

(出典:平成25年度佐賀大学キャリアセンター就職統計)

資料 4-2-1-1 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成 25 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

就職実績から判断して，教育の成果は上がっている。

農学研究科

平成 25 年度の修了生の就職率は，82.0%であり，比較的良好で，昨今の就職難の環境にあって高い就職率をあげている。なお，専門職業人の養成に関しては，ほとんどの就職者が専門分野へ就職していることから，教育の成果の効果は上がっており，専門教育の効果も十分上がっている。

観点 6－2－②：卒業（修了）生や，就職先等からの意見聴取の結果から判断して，学習成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部卒業後又は大学院農学研究科修士課程修了後 3 年以内を対象としてアンケート調査を実施した結果，自己評価の結果が良好（評価段階 4 以上）とした者の割合は 48%であり，農学部・農学研究科における教育の効果はかなり上がっているといえる。

学部卒業者・大学院修了者からの回答

事項	評価段階					平均 評価点
	5	4	3	2	1	
①行動力・実行力	3	9	3	1	0	3.9

②熱意・意欲	3	10	3	0	0	4.0
③論理的思考力	2	4	7	3	0	3.3
④創造的思考力	1	5	6	4	0	3.2
⑤一般常識・教養	1	8	6	1	0	3.6
⑥専門知識	0	3	9	4	0	2.9
⑦コミュニケーション能力	4	6	6	0	0	3.9
⑧プレゼンテーション能力	1	2	8	4	1	2.9
合計 (%)	15 (11.7%)	47 (36.7%)	48 (37.5%)	17 (13.3%)	1 (0.8%)	

備考1：各設問事項について、優れているものを「5」、劣っているものを「1」とし、5段階で評価した。

備考2：合計欄の%は、回答総数に対する割合を示す。

備考3：平均評価点は、各評価項目の評価段階×回答数を合計回答数で除した値である。

上司からの回答

事項	評価段階					平均 評価点
	5	4	3	2	1	
①行動力・実行力	4	8	1	0	0	4.2
②熱意・意欲	4	8	1	0	0	4.2
③論理的思考力	2	7	4	0	0	3.8
④創造的思考力	1	6	6	0	0	3.6
⑤一般常識・教養	5	5	3	0	0	4.2
⑥専門知識	3	4	4	1	0	3.8
⑦コミュニケーション能力	3	9	1	0	0	4.2
⑧プレゼンテーション能力	2	6	4	1	0	3.7
合計 (%)	24 (23.3%)	53 (51.5%)	24 (23.3%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	

注：各設問事項についての説明は、「学部卒業者・大学院修了者からの回答」の備考を参照

農学研究科

修了生（予定者）のアンケート結果では、本研究科の教育の成果や効果は、概ね上がっていると判断される。

農学部就職委員会では、平成20年度に農学部卒業後あるいは大学院修士課程修了後3年以内の者を対象として、就職先へのアンケート調査を行った。このアンケート結果によると、総合評価として佐賀大学卒業生・修了生の80%以上が平均より良好とする自己評価をしており、上司の評価では全ての項目で佐賀大学卒業生・修了生の自己評価を上回り、高い評価を得た。平成21年度以降は、この種のアンケート調査を行っていない。今後、継続して実施する必要がある。

また、農学研究科では後援会の支援により各専攻主任の教員が就職支援活動の一環として会社訪問を行い、就職した学生の働きぶりを聞き取り調査するとともに、求人の依頼を行っている。

資料 6-2-2-1 平成 20 年度アンケート調査報告書（農学部卒業者・大学院修了者・就職先上司）

資料 6-2-2-2 平成 20 年度企業アンケート調査報告書

【分析結果とその根拠理由】

農学部

就職先の職場上司による評価の結果は、学部卒業者・大学院修了者による自己評価の結果より高く（約 75%）、農学部・農学研究科における教育の効果は高く評価されている。

農学研究科

修了生のアンケート結果及び就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断すると、教育の成果や効果は概ね上がっている。平成 20 年度の就職先でのアンケート結果では、学部卒業者・大学院修了者に対して上司の高い評価を得ており、農学部及び農学研究科における教育の効果は高いと判断される。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部及び農学研究科では、学生の履修状況、研究発表成果や修了状況、また各種アンケート調査から、学習成果が上がっている。

【改善を要する点】

特になし

（3）基準 6 の自己評価の概要

農学部及び農学研究科では、学生の履修状況、研究発表成果や修了状況、また各種アンケート調査から、学習成果が上がっているものと判断される。

基準 7 施設・設備及び学生支援

(1) 観点ごとの分析

7-1 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。

観点 7-1-①： 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。

また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

【観点到係る状況】

農学部

農学部は、基本計画委員会規程及び施設委員会規程を定め、それぞれの委員会で施設・設備の運用方法に係る諸課題について審議し、審議結果を教職員へ周知している（資料 7-1-1-1, 7-1-1-2）。農学部が作成した「実験・実習における安全の手引」（資料 7-1-1-3）に施設・設備の利用方法を明記し、全ての実験室等の目につく場所に配置している。また、新入生オリエンテーション（資料 7-1-1-4）で新入生全員に安全の手引きを配布し、周知を図るとともに、実験・実習の際に再度、使用方法を指導している。農学部 1 号館の改修後、学科・学系などの専門教育研究分野ごとに集団化することにより、実験スペースや施設のオープン化、共有化、共同利用化の促進と、研究教育機能の効率化を進めており、共同利用スペースの運用については佐賀大学農学部共同利用スペース利用細則（資料 7-1-1-5）を制定し、構成員に周知させている。また、学生コミュニケーションスペース、大学院演習室、学生自習室、広報室、地域支援室、高度解析共同実験室、客員教授室などを設けて、キャンパスアメニティの形成とともに、産学の連携・協力型研究及び生涯学習などの地域貢献の推進にも配慮している。

高度な教育研究に必要な機器は、総合分析実験センター機器分析部門の装置として登録・管理されており、その利用に関しては、佐賀大学ホームページの利用案内（資料 7-1-1-6）に示されている。多目的講義室、大学院演習室、学生演習室、会議室の使用に当たっては、事前に予約表に記入することを義務づけている。液晶プロジェクター、実物投影機、OHP、スライドプロジェクターなどの教育機器についても集中管理し、予約制としている。

農学部は、1 号館から 4 号館の建物の他に、圃場、大型温室を含む温室等を有しており、年間を通して活用している（資料 7-1-1-7）。圃場（畑地）利用に関しては農学部施設委員会で毎年調整している。東圃場に関しては、平成 23 年度に不要実験施設撤去による跡地（約 800 m²）整備、平成 25 年度には未利用倉庫等撤去による畑地整備（約 450 m²）とともに、貯水槽のフェンス取設による衛生安全面の強化を図っている。今後は、西圃場エリアの整備が課題である。

附属アグリ創生教育研究センターには、農場及び畜産設備があり、農場実習や学生の学位論文や卒業論文作成等に有効に利用され、フィールドを重視した教育研究に必要な施設・設備を整備し、活用している。

農学部共通の講義室は、1 号館に 9 室あり、学部及び大学院の講義に利用されている（資料 7-1-1-8）。

また、少人数の講義や研究指導を円滑に運用するためのセミナー室、学部の卒業研究や大学院の特別研究を行う学生の研究室や実験室を整備している（資料 5-1-3-4）。大学院生用の多目的講義室及び演習室は、学部教育のためにも活用されている。

耐震化については本館の改修のときに補強している。バリアフリー化については農学部の 1, 2, 4 号館の出入り口に少なくとも 1 ヶ所、車いすの出入りができるようにしているが、3 号館のみまだ設置されていないので、善処を要する。また、本館の階段に身体障害者用に手すりを設置し、3, 4 号館の間に省エネに配慮した LED 電球の街灯を設け、農学部敷地内の犯罪の防止にも努めている。農学部各施設の出入り口には電気錠による IC カードリーダーを設置し、教職員・学生は夜間の出入りに図書カードを利用し、外部からの不審者の侵入を極力防いでいる。平成 25 年度には、1 号館南棟 2 階の渡り廊下部分の防火扉の改修工事を行い、安全面が強化されている。

農学研究科

学部同様に、農学研究科の施設・設備の整備・運用は、農学部基本計画委員会・施設委員会で検討された基本方針に基づいて行っており、教職員及び大学院生に周知され、有効利用が図られている。特に大学院では社会人向けの特別コース（農業版 MOT 教育）を設けており、夜間に講義室を使用する（18:00～19:30, 19:40-21:10 の開講）ので、施設の管理には留意している。バリアフリー化及び安全・防犯面についても学部と同様である。

【分析結果とその根拠理由】

農学部

農学部の目的に即した施設・設備が整備され、活用されている。圃場の有効活用や衛生安全面での強化がなされており、身障者の学習等に配慮したバリアフリー化が進められている。

農学研究科

農学研究科も学部と同様である。

資料 7-1-1-1	農学部基本計画委員会規程
資料 7-1-1-2	農学部施設委員会規程
資料 7-1-1-3	安全の手引き（平成 25 年度、農学部安全衛生委員会発行）
資料 7-1-1-4	新入生オリエンテーションスケジュール（平成 25 年度）
資料 7-1-1-5	農学部共同利用スペース利用細則
資料 7-1-1-6	総合分析実験センター（ http://www.iac.saga-u.ac.jp/ ）
資料 7-1-1-7	圃場・温室利用状況（平成 25 年度）
資料 7-1-1-8	農学部履修の手引き（平成 25 年度）
資料 7-1-1-9	農学部講義室使用状況（平成 25 年度）
資料 5-1-3-4	佐賀大学学生便覧（平成 25 年度）

観点 7-1-②： 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部では、ほぼすべての研究室、演習室、実験室にインターネットの有線 LAN 端末及び表に示す無線 LAN ポートを設けている。

学生には、入学後すぐにインターネット・アドレスが与えられ、個人用並びに図書館あるいは情報演習室に設置しているパソコンを用いて、就学に必要な情報を学内及び学外から自由に得ることができる。科目履修と学生生活に関しては、それぞれ農学部教育委員及び農学部学生委員へ直接アクセスできるメールアドレスを設けている（資料 2-1-1-4）。学生センターへは、インターネットと携帯電話からアクセスできるアドレスを設けている。

農学部マルチメディア情報室を整備し、パソコン 30 台を設置して、学部の情報教育に活用している。また、4 号館 2 階の情報演習室に学科共通のパソコン 20 台を設置し、学生の IT 教育に利用している。さらに、各研究室の自習スペースには研究室共通のパソコンが数台（研究室個々に台数は異なる）設置され、研究室のゼミ生がデータの整理や発表資料の作成に利用している。

農学研究科

農学研究科も ICT 整備環境は、学部と同様である。大学院演習室には、サイネットシステムがあり、大学間の研究情報などをこのネットワークを通じて交換している。特に、佐賀大学農学研究科が所属している鹿児島大学連合農学研究科の学生や教員がよく利用している。

【分析結果とその根拠理由】

農学部

教育の内容・方法や学生のニーズを満たすための情報ネットワークの整備は、おおむね達成され、教職員及び学生により有効に活用されている。

農学研究科

教育の内容・方法や学生のニーズを満たすための情報ネットワークの整備は、おおむね達成され、教職員及び学生により有効に活用されている。

資料 2-1-1-4 農学部履修の手引（平成 25 年度）

観点 7-1-③： 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部の図書類は、附属図書館に集中しており、独自の図書館を有していない。図書・雑誌・視聴覚資料などの整備状況については附属図書館からの報告にまかせるとして、ここでは農学部教職員や学生の利用状況について報告する。

表は、各学部（大学院を含む）の月別及び年度別の学生による図書貸出冊数である。月別の個人の貸出冊数データを見ると、全学部の中でも農学部の利用度は比較的高く、平成 25 年度の学生一人あたりの貸出数は 8.03 冊であった。近年ではインターネットを活用した資料調査の機会も多いと思われるが、専門書等を用いた学習において図書館は有効に活用されている。このことは、年度毎の個人貸出冊数データでも明らかであり、農学部を始め全学部とも 2007 年度（平成 19 年度）から 2013 年度（平成 25 年度）まで 1 人あたりの貸出数増大の傾向が認められ、漸次附属図書館の利用度が高まってきている。

	文教		経済		理工		農		医		全体	
	文教	1人平均	経済	1人平均	理工	1人平均	農	1人平均	医	1人平均	全学	1人平均
2013/4	672	0.62	491	0.39	1,325	0.57	472	0.71	1,106	1.26	4,066	0.65
2013/5	1,000	1.50	703	0.98	1,558	1.24	591	1.62	1,107	2.52	4,959	1.46
2013/6	1,085	2.48	673	1.54	1,423	1.85	507	2.39	1,266	3.97	4,954	2.26
2013/7	1,252	3.61	772	2.17	1,488	2.50	581	3.27	1,171	5.30	5,264	3.11
2013/8	518	4.07	248	2.37	447	2.69	214	3.60	360	5.71	1,787	3.40
2013/9	263	4.31	158	2.50	224	2.78	196	3.90	1,023	6.88	1,864	3.70
2013/10	815	5.04	685	3.07	1,479	3.42	532	4.71	1,062	8.09	4,573	4.44
2013/11	818	5.78	705	3.65	1,515	4.07	506	5.48	954	9.18	4,498	5.17
2013/12	868	6.56	677	4.20	1,170	4.58	619	6.42	650	9.92	3,984	5.81
2014/01	1,147	7.59	671	4.76	1,409	5.18	608	7.35	806	10.84	4,641	6.56
2014/02	608	8.13	297	5.00	674	5.47	345	7.87	670	11.60	2,594	6.98
2014/03	155	8.27	106	5.09	273	5.59	105	8.03	317	11.96	956	7.14

	文教		経済		理工		農		医		全体	
	文教	1人平均	経済	1人平均	理工	1人平均	農	1人平均	医	1人平均	全学	1人平均
2007年度	4,200	3.72	1,823	1.39	5,624	2.32	2,231	3.34	11,668	13.87	25,546	4.01
2008年度	3,775	3.33	1,716	1.31	4,678	1.91	2,273	3.34	10,529	12.37	22,971	3.58
2009年度	4,408	3.87	2,774	2.14	5,542	2.35	2,683	3.98	9,471	11.20	24,878	3.94
2010年度	4,521	4.05	3,579	2.76	7,705	3.26	3,968	5.86	9,648	11.21	29,421	4.66
2011年度	6,462	5.87	5,470	4.30	10,523	4.46	4,014	5.94	10,325	11.88	36,794	5.86
2012年度	7,348	6.74	5,637	4.47	10,528	4.51	5,335	8.05	10,225	11.67	39,073	6.28
2013年度	9,201	8.27	6,186	5.09	12,985	5.59	5,276	8.03	10,492	11.96	44,140	7.14

（出典：佐賀大学附属図書館）

農学研究科

学部と同様である。

【分析結果とその根拠理由】

農学部

附属図書館からの図書の貸出冊数が多く、よく利用されている。

農学研究科

農学研究科も学部と同様である。

観点 7-1-④：自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部の学生が利用する主な学習スペースは、附属図書館と農学部建物内にある。

附属図書館は、授業で使う参考図書を充実し、学生用の机、パソコン等を整備している（資料 7-1-4-1）。

農学部の建物内には、学生が自由に使える学習机と椅子を備えた学生専用スペースを設けている。自習スペースには十分な机、椅子、書籍などを整備している。（資料 7-1-4-2）。

パソコンは、ほとんどの研究室において個人が持つように指導しているが、共通使用のパソコンのニーズも高いと判断される。

農学部施設委員会等を中心に、学生コミュニケーションスペースの環境整備の検討がなされ、農学部 1 号館南棟 1 階の学生コミュニケーションスペースにおいて、パーティション及び空調設備が設置された（平成 25 年度）。学生の自習スペースとして、特に夏季と冬季の利用における学習環境が改善されている。

農学研究科

学部と同様であるが、農学研究科では、配属された分野毎あるいは研究室毎に院生用の机を整備し、複数教育分野では、院生専用の演習室を確保し、各部屋にはパソコンを設置している。これらのパソコンは、院生が自主学習に活用している。

【分析結果とその根拠理由】

農学部

農学部の学生のための自主的学習環境は、主に、附属図書館、総合情報基盤センター及び農学部建物において整備されている（資料 7-1-4-3）。パーティション及び空調設備の設置等、一部の学生コミュニケーションスペースの環境整備も行われている。これらの自習スペースは、学生の利用状況から判断して効果的に活用されていると判断される。

農学研究科

農学研究科の学生のための自主的学習環境も、学部と同様に、附属図書館、総合情報基盤センター及び農学部建物において整備されている（資料 7-1-4-3）。学生の利用状況から判断して、効果的に活用

されていると判断される。

資料 7-1-4-1	附属図書館利用規程
資料 7-1-4-2	農学部建物平面図
資料 7-1-4-3	総合情報基盤センター利用規程

7-2 学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習、課外活動、生活や就職、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること

観点 7-2-①：授業科目、専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部教育委員会は、授業科目や専門、専攻の選択の際のガイダンスを、1年次最初のオリエンテーション時や前学期終了時、コース分属・分野分属時などに実施している。また、各学科・講座等の具体的な教育研究内容、教員組織等の具体的な内容は、佐賀大学農学部・農学研究科概要（資料 4-2-1-1）に記し、詳しく説明している。

卒業・修了予定者アンケートの結果では、ガイダンスによって授業科目をどう履修したらよいか理解できましたかについて、理解できた（5段階評価4以上）とした学生が82.8%であった（資料 6-1-2-1）。また、ガイダンスによって専攻の選択をどう行ったらよいか理解できましたかについて、理解できた（5段階評価4以上）とした学生が64.2%であった（資料 6-1-2-1）。

ガイダンスによって授業科目をどう履修したらよいか理解できましたかのアンケート調査

		2	3	4	理解できた	合計
応用生物科学科	度数	1	0	9	10	20
	所属学科・課程の%	5.0%	.0%	45.0%	50.0%	100.0%
生物環境科学科	度数	1	4	12	5	22
	所属学科・課程の%	4.5%	18.2%	54.5%	22.7%	100.0%
生命機能科学科	度数	0	4	8	4	16
	所属学科・課程の%	.0%	25.0%	50.0%	25.0%	100.0%
合計	度数	2	8	29	19	58
	所属学科・課程の%	3.4%	13.8%	50.0%	32.8%	100.0%

（出典：平成 25 年度学生対象アンケート（農学部）基礎集計表）

ガイダンスによって専攻の選択をどう行ったらよいか理解できましたかのアンケート調査

		2	3	4	理解できた	合計
応用生物科学科	度数	2	4	7	3	16
	所属学科・課程の%	12.5%	25.0%	43.8%	18.8%	100.0%
生物環境科学科	度数	2	4	11	5	22
	所属学科・課程の%	9.1%	18.2%	50.0%	22.7%	100.0%
生命機能科学科	度数	1	6	6	2	15
	所属学科・課程の%	6.7%	40.0%	40.0%	13.3%	100.0%

合計	度数 所属学科・課程の%	5 9.4%	14 26.4%	24 45.3%	10 18.9%	53 100.0%
----	-----------------	-----------	-------------	-------------	-------------	--------------

(出典：平成25年度学生対象アンケート（農学部）基礎集計表)

農学研究科

農学部大学院教育小委員会を中心として、学生に対して年数回のガイダンスを行っている。具体的には、研究科の入学生を対象として、冊子体の大学院履修案内（資料2-1-3-2）及び佐賀大学農学部・農学研究科概要（資料4-2-1-1）を配布し、これに沿って、教育研究内容、教員組織、履修モデル、授業科目の選択、受講方法、履修方法、修了認定基準及び学位授与等について説明している。

また、個別な取り組みとして、各教育研究分野の指導教員は、分野所属の学生と相談し、2年間の履修計画を立て、マンツーマンで学習（履修）を指導し、指導の点検・評価を行っている（資料2-1-3-2、資料5-5-6-1）。さらに、他大学からの入学者に対し、教員は必要に応じて、個別に特別の指導（補完的な教育や研究方法の指導）を実施している。

平成25年度の修了予定者対象アンケート（資料6-1-2-1）によれば、入学時、進学時のガイダンスによって授業科目をどう履修したらよいか理解できましたかの質問に対しては、58.3%の学生が理解できていた（4段階評価3以上）。

ガイダンスによって授業科目をどう履修したらよいか理解できましたかのアンケート調査

		あまり知らない	どちらともいえない	やや理解できた	よく理解できた	合計
農学研究科生物 資源科学専攻	度数 所属研究科・専攻の%	3 25.0%	2 16.7%	4 33.3%	3 25.0%	12 100.0%
合計	度数 所属研究科・専攻の%	3 25.0%	2 16.7%	4 33.3%	3 25.0%	12 100.0%

(出典：平成25年度学生対象アンケート（農学部）基礎集計表)

資料4-2-1-1 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成25年度）

資料6-1-2-1 佐賀大学学生対象調査報告書（平成25年度）

資料2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内（平成25年度）

資料5-5-6-1 研究指導の実施に関する報告書

【分析結果とその根拠理由】

農学部

オリエンテーション時などのガイダンス実施状況や卒業・修了予定者アンケートの結果から、授業科目や専門、専攻選択の際のガイダンスは、農学部教育委員会により、適切に実施されていると判断される。

農学研究科

2年間の履修計画を立てる際に、指導教員が学生に対してマンツーマンで学習（履修）方法を指導するなど、授業科目や専門、専攻の選択の際のガイダンス体制は適切である。

観点 7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部では、学習支援に関する学生のニーズについて、学生対象アンケートの結果などから、教育委員会を中心に組織的に把握・分析している（資料 6-1-2-1）。全ての学生に対しチューターを定め、教育委員及びチューターが学生に対して適宜、学習相談、助言、支援を行っている（資料 7-2-2-1）。また、農学部ホームページにも在学生対象の履修方法などに関する質問コーナー（資料 7-2-2-2）を設け、農学部の全教員がオフィスアワーを設定し（資料 5-2-4-1）、学習相談・助言体制を整えている。さらに、教育委員会では平成 23 年度からのラーニング・ポートフォリオの実施を行っている。

聴覚障害を持つ学生に対しては、ノートテイクを配置するなど適切な支援を行っている（資料 7-2-2-3）。

学生対象アンケートの結果で、どの程度の頻度でチューター（担任）教員に相談しているかについてみると、利用しなかったは 48.2%であり、4 回以上相談したは 8.9%であった。また、どの程度の頻度でオフィスアワーを利用しているか（1 学期当たりの利用回数）についてみると、利用しなかったは 80.0%であり、1 学期当たり 4 回以上相談したは 6.0%であった。

どの程度の頻度でチューター（担任）教員に相談しているかのアンケート調査

		利用しなかった	1 回	2～3 回	4～7 回	8 回以上	合計
応用生物科学科	度数 所属学科・課程の%	9 42.9%	4 19.0%	7 33.3%	1 4.8%	0 .0%	21 100.0%
生物環境科学科	度数 所属学科・課程の%	10 47.6%	4 19.0%	3 14.3%	3 14.3%	1 4.8%	21 100.0%
生命機能科学科	度数 所属学科・課程の%	8 57.1%	2 14.3%	4 28.6%	0 .0%	0 .0%	14 100.0%
合計	度数 所属学科・課程の%	27 48.2%	10 17.9%	14 25.0%	4 7.1%	1 1.8%	56 100.0%

（出典：平成 25 年度学生対象アンケート（農学部）基礎集計表）

どの程度の頻度でオフィスアワーを利用しているか（1 学期当たりの利用回数）のアンケート調査

		利用しなかった	1 回	2～3 回	4～7 回	8 回以上	合計
応用生物科学科	度数 所属学科・課程の%	18 94.7%	1 5.3%	0 0%	0 0%	0 0%	19 100.0%
生物環境科学科	度数 所属学科・課程の%	12 60.0%	3 15.0%	2 10.0%	2 10.0%	1 5.0%	20 100.0%
生命機能科学科	度数 所属学科・課程の%	10 90.9%	1 9.1%	0 0%	0 0%	0 0%	11 100.0%
合計	度数 所属学科・課程の%	40 80.0%	5 10.0%	2 4.0%	2 4.0%	1 2.0%	50 100.0%

（出典：平成 25 年度学生対象アンケート（農学部）基礎集計表）

農学研究科

農学研究科では学習支援に関する学生のニーズについて、大学院教育小委員会を中心に組織的に把握・分析し、助言、支援を行っている。また、農学部ホームページにも在学生対象の履修方法などに関する質問コーナー（資料 7-2-2-2）を設け、さらに農学部の全教員がオフィスアワーを設定し（資料 5-2-4-1）、学習相談・助言体制を整えている。

平成 25 年度の修了予定者対象アンケート（資料 6-1-2-1）によれば、学修相談の体制をどのくらい満足していますかの質問に対しては、33.3%の学生が満足できていた（4段階評価 3 以上）。

学修相談の体制をどのくらい満足していますかのアンケート調査

		不満足	どちらとも いえない	やや満足	満足	合計
農学研究科生物 資源科学専攻	度数	1	5	2	1	9
	所属研究科・専攻の%	11.1%	55.6%	22.2%	11.1%	100.0%
合計	度数	1	5	2	1	9
	所属研究科・専攻の%	11.1%	55.6%	22.2%	11.1%	100.0%

（出典：平成 25 年度学生対象アンケート（農学部）基礎集計表）

資料 6-1-2-1 佐賀大学学生対象調査報告書（平成 25 年度）

資料 7-2-2-1 平成 25 年度チューター名簿

資料 7-2-2-2 佐賀大学農学部ホームページ（在学生向け情報）

（<http://www.ag.saga-u.ac.jp/zaikousei.html>）

資料 5-2-4-1 オフィスアワー一覧（<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/office.html>）

資料 7-2-2-3 平成 25 年度ノートテイカー名簿

【分析結果とその根拠理由】**農学部**

学生委員会で、学生アンケートなどから学生のニーズを把握し、全学生にチューターを置くなど、教育委員会とチューターを中心に適切な学習相談、助言、支援体制を整えている。また、教育委員会ではティーチング・ポートフォリオの積極的な運用もなされ、学習支援は適切に実施されている。

農学研究科

大学院教育小委員会を中心として、農学部ホームページにも在学生対象の質問コーナーを設けるなど、組織的に学生のニーズを適切に把握するため、適切な学習相談、助言、支援体制を整えている。農学研究科では学習支援体制などに係る個別指導が行き届いていると思われる。

観点 7-2-③： 通信教育を行う課程を置いている場合には、そのための学習支援、教育相談が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点 7-2-④： 学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

佐賀大学農学部同窓会表彰規定（資料 7-2-4-1）に基づいて、スポーツや文化活動等で功績があった 4 人を表彰した。また、一部の農学部の教員が部活動の団体の顧問を担当している（資料 7-2-4-2）。

資料 7-2-4-1 佐賀大学農学部同窓会表彰規定

資料 7-2-4-2 学生団体の顧問教員（農学部）

【分析結果とその根拠理由】

スポーツや文化活動等で功績があった 4 人を表彰し、一部の農学部の教員が部活動等の団体の顧問を担当するなど、学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われている。

観点 7-2-⑤： 生活支援等に関する学生のニーズが適切に把握されており、生活、健康、就職等進路、各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、適切に行われているか。また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて生活支援等が行われているか。

【観点に係る状況】

農学部

学生委員会委員，大学教育委員会委員，チューター（担任），卒論指導教員，学生生活課職員，農学部教務係職員を含む全ての教職員が，学生のニーズの把握と対応に努めている。全ての教員はオフィスアワーを設定し，一般学生，留学生，社会人，障害を有する学生からの多岐にわたる相談に対応している（資料 7-2-5-1）。

新入生から，教育研究分野への分属が決まるまでの学生については，チューター（担任）が相談役を務めている。各チューターは，約 10 人の学生の相談役となり，各学期毎に，必要に応じて個人面接を行うことにより，課題を抱えている学生を把握し，対応している。面接日時等は，掲示等により，学生へ周知している。教育研究分野へ分属した学生については，卒論指導教員が対応している。ハラ

スメントについては、同和人権問題委員会の委員及び同相談委員が主として対応している。

農学部の留学生、社会人入学生、編入学生、障害のある学生など、特別に支援が必要な学生の入学に備えて、留学生担当専門教員、教育委員会委員、学生委員会委員を配置して、学習支援体制を整えている。留学生については、学生チューター制をとり、学習と生活支援を実施している。

農学研究科

学生の進路・生活面・健康（精神面）及び定期的健康診断などについては、主に、所属研究室の指導教員、学生センターの相談窓口、農学部ホームページの相談窓口（資料 7-2-2-3）及び佐賀大学保健管理センターで対応している。また、佐賀大学学生支援室では、適切な学生の指導法を書いたチューター（担任）制度ガイドブック（資料 7-2-5-2）を発行し、教員に配布している。

留学生の場合には、日本の学生による学生チューター制（資料 7-2-5-3）を実施し、生活支援体制を整えている。また、農学研究科では、留学生専門講師を配置し、講義（資料 2-1-3-2）を通じて留学生の進路及び生活面などに関して支援している。

ハラスメントについては、農学研究科（農学部）では、女性の相談員を含め 2 人を配置し、入学時にハラスメント防止に関するパンフレット（資料 7-2-5-4）を入学生のガイダンス時に配布・説明し、入学後も学内で同和・人権の講習会を数回開き（資料 7-2-5-5）、教職員及び学生にこの問題が生じた場合の対応や、予め防ぐ方法などを周知している。

平日の労働時間帯に受講できにくい社会人学生に対しては、夜間開講あるいは集中講義を行う体制を取っている。なお、基礎教育が必要とされる社会人に対する補習教育については、大学院教育小委員会、学生委員会が適宜、あるいは指導教員が個別に対応している。

平成 25 年度の卒業・修了予定者対象のアンケート（資料 6-1-2-1）によると、進路に関する相談・助言体制への満足度は 27.3%、不満足度は 9.1%であることから、進路支援に関して学生は概ね満足していると判断される。また、健康に関する相談・助言体制への満足度は 36.4%、不満足度は 9.1%であることから、健康支援に関しても学生は概ね満足していると判断される。農学研究科では個別指導が行き届き、オフィスアワー以外の時間でも相談が可能であるためと思われる。

進路に関する相談・助言体制にどのくらい満足していますかのアンケート調査

		不満足	やや不満足	どちらとも いえない	やや満足	満足	合計
農学研究科生物 資源科学専攻	度数 所属研究科・専攻の%	1 9.1%	1 9.1%	6 54.5%	2 18.2%	1 9.1%	11 100.0%
合計	度数 所属研究科・専攻の%	1 9.1%	1 9.1%	6 54.5%	2 18.2%	1 9.1%	11 100.0%

（出典：平成 25 年度学生対象アンケート（農学部）基礎集計表）

健康に関する相談・助言体制にどのくらい満足していますかのアンケート調査

		不満足	やや不満足	どちらとも いえない	やや満足	満足	合計
農学研究科生物 資源科学専攻	度数 所属研究科・専攻の%	1 9.1%	1 9.1%	5 45.5%	3 27.3%	1 9.1%	11 100.0%

合計	度数 所属研究科・専攻の%	1 9.1%	1 9.1%	5 45.5%	3 27.3%	1 9.1%	11 100.0%
----	------------------	-----------	-----------	------------	------------	-----------	--------------

(出典：平成25年度学生対象アンケート（農学部）基礎集計表）

資料7-2-5-1 教員報告様式 【佐賀大学ホームページ（職員向け掲示板）】

(<https://udb.cc.saga-u.ac.jp/staffData/>)

資料7-2-2-3 佐賀大学農学部ホームページ（在学生向け情報）

(<https://www.ag.saga-u.ac.jp/zaikousei.html>)

資料7-2-5-2 チューター（担任）制度ガイドブック（佐賀大学学生支援室）

資料7-2-5-3 チューターの手引き（佐賀大学国際課）

資料2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内（平成25年度）

資料7-2-5-4 セクハラ・アカハラ・パワハラとは？（同和・人権問題委員会）

資料7-2-5-5 平成25年度同和・人権問題講習会開催予定表（同和・人権問題委員会）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

学生のニーズ把握と、ハラスメント等の問題が生じた場合の体制は整備され、機能している。また、農学部の各種委員会及び関係教員が、特別な支援が必要な者への学習相談、助言を適切に実施していると判断される。

農学研究科

学生の健康、生活、進路面については、指導教員をはじめ学生センター、学生支援室及び保健管理センターなどで二重、三重に支援体制を整えている。ハラスメントの対応についてもパンフレットの配布、ガイダンス及び講習会などで周知すると同時に、相談・助言体制が整備され、適切に機能している。留学生については、学習内容に対応して、留学生担当講師あるいは日本人の学生が学習支援を、社会人学生に対しては、夜間開講科目や集中講義を用意するなど、制度的な教育支援を行っている。また、各種委員会及び関係教員が、個別に学習相談や助言を適切に行っているなど、支援体制は適切である。

観点7-2-⑥： 学生に対する経済面の援助が適切に行われているか。

【観点到係る状況】

農学部

全学部の学生を対象とした学生支援機構奨学金は、多くの農学部学生が利用している。

農学部の学生だけを対象とする給付型奨学金（中董奨学金）を、平成25年度は成績優秀な学生1人が受給している（資料7-2-6-1）。これ以外の奨学金等に関する情報は、掲示等により、学生に周知している。

農学部からの奨学生の推薦にあたっては、成績等により、学生委員会が厳正に順位付けを行った上で、上位者から推薦している。

農学研究科

佐賀大学の大学院生の経済支援体制として、授業料免除（半免を含む。）と奨学金制度があり、この窓口には佐賀大学学生センター（資料 7-2-6-2）が対応し、ウェブ上に掲載して、広く周知している。農学部学生委員会では、大学院生の奨学生選考の順位を付け、全学学生委員会（資料 7-2-6-3）に報告している。全学学生委員会では、厳正な審議を行い、大学院生の授業料減免者及び奨学生の候補者を決定している。また、農学研究科では、奨学金返還免除者申請に関する定め（資料 7-2-6-4）を整備しており、入学時のガイダンスで周知している。

資料 7-2-6-1 中董奨学会ホームページ (<http://www.nakashima-foundation.org/scholarship/>)

資料 7-2-6-2 奨学金ホームページ (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/syougakukin.html>)

資料 7-2-6-3 学生委員会規程

資料 7-2-6-4 免除者申請の定め「農学研究科奨学金返還免除候補者」の選考について
(農学部学生委員会)

【分析結果とその根拠理由】

農学部

学生に対する経済的支援は、公平を期しながら、農学部学生委員と学生生活課が適切に実施している。

農学研究科

経済的支援体制として、農学研究科学生を対象とした授業料減免制度及び奨学生制度・奨学金返還免除制度を設けており、これらの選考制度が整備され、機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部及び農学研究科では、学生の利用状況や実態調査等から判断して、教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備、また学生支援体制が整備されている。

【改善を要する点】

農学部の学生コミュニケーションスペースについては、1号館南棟のスペースについてはパーティション及び空調設備が整備されたが、1号館北棟及び4号館の当該スペースについてはパーティション設置の要望はあるが、未だ整備されていない。今後も、農学部施設委員会等を中心とした農学部自習スペースの環境整備の検討が望まれる。

(3) 基準 7 の自己評価の概要

農学部及び農学研究科では、学生の利用状況や実態調査等から判断して、教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備、また学生支援体制が整備されている。学生支援体制に関しては、順次学生の学習環境の改善を行う等、概ね有効に機能していると思われる。

基準 8 教育の内部質保証システム

(1) 観点ごとの分析

8-1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。

観点 8-1-①： 教育の取組状況や大学の教育を通じて学生が身に付けた学習成果について自己点検・評価し、教育の質を保証するとともに、教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能しているか。

【観点到係る状況】

農学部

教員の教育活動の実態を示す資料（講義ノート、スライドファイル、資料等、学生の出席状況、試験問題、レポート課題、答案、レポート、成績結果、卒業研究等）は、各教員が責任をもって保管・蓄積している。これらの資料に基づく教育活動の実態は、農学部教育研究業績総覧及び農学部自己点検・評価報告書として取りまとめ、公開している（資料 3-2-2-2, 6-1-1-1）。

農学研究科

教員の講義ノート、学生の出席状況、試験問題、レポート課題、答案、レポート、模範解答、成績結果、修士論文、博士論文等の教育活動の実態の根拠となる原資料については、原則として担当した教員が保管・蓄積している。

農学研究科担当教員の全般にわたる教育（研究）活動の実態を平成 17 年度まで 3 年毎に農学部教育研究業績総覧（資料 3-2-2-2）として取りまとめていたが、平成 18 年度以降は佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（資料 6-1-1-1）として毎年取りまとめ、農学部事務部が管理している。

資料 3-2-2-2 佐賀大学農学部教育研究業績総覧（2002 年，2006 年）

資料 6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成 20，21，22，23，24 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

教育の活動実態を示すデータや資料の収集・蓄積及びその組織的な集計がなされている。

農学研究科

教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を研究科担当教員や附属図書館などで、収集・蓄積・管理しており、それらの組織的な集計については研究業績総覧や自己点検・評価報告書などに取りまとめ、農学部事務部が適切に保管・管理している。

観点 8－1－②： 大学の構成員（学生及び教職員）の意見の聴取が行われており、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点に係る状況】

農学部

「学生による授業評価」の集計結果とアンケート用紙の原票は教員へ返却され、或いは LiveCampus コミュニケーションポータルシステムから閲覧することができ、授業改善に活用されている（資料 5-2-3-1 及び資料 5-5-1-1）。農学部を含む全学部の授業評価を取り纏めた授業評価報告書には、集計・比較・分析された各評価項目のデータを記している（資料 3-2-2-7）。この分析結果を見ることにより、教員は担当科目についての相対的評価を知り、授業改善に活用できる。

大学教育委員会の F D 専門委員会は、授業改善に資するため、授業評価の結果の活用（フィードバック）に関する先進事例等を紹介している。農学部 F D 専門委員会は、全学的な F D 活動と連携しながら、教育の質的改善に向けた活動（講演会等）を実施している（資料 8-1-2-3）。

農学研究科

大学院の全講義において授業評価が実施され（資料 5-2-3-1 及び資料 5-5-1-1）、この集計結果については、研究科ごとに集計・比較・分析し（資料 8-1-2-1）、評価項目に対する講義の相対的評価を個々の担当教員に通知し、これを参考に翌年に向けた授業の改善点などを各教員がウェブ入力し、ホームページで公表するようにしている（資料 5-5-1-1）。

また、平成 18 年度には大学教育委員会と高等教育開発センターでは、教職員にもアンケート（資料 8-1-2-2）を行い、オフィスアワーの設置意義や F D 講演会の参加回数あるいは学生の授業評価の利用方法などを質問しており、これらのデータを基に教員の教育の質の向上や改善について検討している。

資料 5-2-3-1 授業評価実施要領

資料 3-2-2-7 学生による授業評価の実施に関する報告書

(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/hyoka.html>)

資料 5-5-1-1 佐賀大学ホームページ（Live Campus）

(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/livecampus.html>)

資料 8-1-2-2 平成 18 年度佐賀大学教員対象アンケート報告書

資料 8-1-2-3 平成 23 年度及び平成 24 年度 F D 活動報告書

(<https://www.sso.cc.saga-u.ac.jp/ag/minutes/minutes.html>)

【分析結果とその根拠理由】

農学部

学生による授業評価、F D 活動等が行われ、学生及び教員からの意見聴取を踏まえ、教育の質の向上に反映させている。

農学研究科

大学教育委員会と全学教育機構高等教育開発室では、大学院生による授業評価を毎年行い、また教

職員にも教育に関する重要な事柄についてアンケートを行い、これらの結果を教員の授業改善及び教育全般にわたる改善に利用しており、大学の構成員の意見が教育の質の向上・改善に向けて継続的に適切な形で活かされている。

観点 8－1－③： 学外関係者の意見が、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点に係る状況】

農学部

学外関係者の意見は、学生の保護者、後援会、同窓会会員、学部卒業生の採用企業、外部評価委員等から得ており、教職員の意識改革と教育の質的向上・改善に活用している。

農学部後援会総会を毎年開催し、保護者に対する教育活動報告と意見交換を行っている。意見交換を通して得られた要望等は、学科会議や学部運営会議で検討し、教育活動へ反映している。農学部同窓会総会には、学部長、学科長等が出席し、農学部における教育活動の報告と、卒業生からの意見聴取を行い、その結果を教育活動へ反映している。農学部卒業生の就職先に対するアンケート調査及び就業している卒業生を毎年 5～6 名招き就職ガイダンスを開き、同時に意見収集を農学部就職委員会が実施している。卒業生に対する社会の評価を学部教育へ反映させるために、報告書を作成し、各教員へ周知している（資料 6-2-2-1）。各年実施する農学部自己点検・評価において、学外評価委員からの意見を聴取し（資料 6-1-1-1）、農学部教育委員会や学部運営会議で検討し、教育活動の改善に活用している。

農学研究科

農学部就職委員会においては、平成 20 年度に修了生の就職先へアンケート調査を実施し、修了生に対する社会の評価を教育活動へ反映させるための報告書を作成・配布し、各教員へ周知している（資料 6-2-2-2）。

年 1 回、農学部後援会総会を開催し、大学院生の保護者へ教育活動の報告を行い、保護者との意見交換の際、出てきた要望等を専攻会議や学部運営会議で検討し、教育活動へ反映させている。さらに、農学部自己点検・評価報告書（資料 6-1-1-1）について、学外評価委員からの意見を聴取し、学部教育委員会や学部運営会議で検討し、教育活動へ反映させている。

資料 6-2-2-1 平成 20 年度アンケート調査報告書

（農学部卒業者・大学院修了者・就職先上司）

資料 6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成 20, 21, 22 年, 23, 24 年度）

資料 6-2-2-2 平成 20 年度企業アンケート調査結果報告書

【分析結果とその根拠理由】

農学部

学外関係者から聴取したアンケートによると、本学部卒業生の企業における評価は比較的良好であ

った。企業アンケート調査による意見を参考とし、教育の改善に活用するなど、学外関係者の意見が教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされている。

農学研究科

会社関係者、保護者及び卒業生などのアンケートや意見並びに農学部自己点検・評価報告書に対する学外評価委員の意見についてコース会議や学部運営会議などで検討され、教育活動へ反映されており、学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて適切な形で活かされている。

8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。

観点 8-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが適切に実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部教育委員会内のFD専門委員会を農学部ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会として独立させることにより、組織的なFD活動の実施体制を強化している（資料 8-2-1-1, 8-2-1-2）。教員の教育力向上のために、農学部独自のFDセミナーを教授会前に開催し、また、教授会後に研究紹介を実施してきた（資料 8-2-1-3, 8-2-1-4）。教員の出席率は高かった。「学生による授業評価」は、継続的に実施し、授業評価の結果を授業改善に利用するため、大学教育委員会が集計分析し、各学部へフィードバックしている（資料 3-2-2-7）。

農学研究科

学生による授業評価に基づいたFD活動を行うために大学教育委員会で授業評価の結果を集計分析し、検討結果を学部へフィードバックし（資料 3-2-2-7）、これらに基づいて、教員はシラバスの改善（資料 5-5-1-1）を毎年継続的に行っている。また、平成 20 年度から本研究科に佐賀大学大学院農学研究科FD委員会を設置し（資料 8-2-1-5）、この活動に関する企画・実施体制を整えている。

さらに、佐賀大学では主に全学教育機構高等教育開発室が毎年 2～3 回FD・SDフォーラムを開催し（資料 8-2-1-7）、教員へ授業評価の活用法などを教授している。さらに、毎月定期的に行われる研究科委員会の終了後、各教員がお互いの研究を紹介し（資料 8-2-1-4）、自分の専門分野以外の研究動向について勉強会を開き、これらを自らの教育研究に活かしている。

また、授業評価の結果から映像を用いた講義スタイルへの要望が強いことへの対応として、講義室にビデオ装置や動画処理が可能な液晶プロジェクターを整備し（資料 8-2-1-6）、さらに無線LANポートやLAN有線接続ポートを設け、インターネットを活用した講義を可能とするなど、教育環境の改善を行っている。

平成 20～24 年度高等教育開発センター主催 F D ・ S D フォーラム

開催年度	開催日	講演題目	講演者
20	7/16 (水)	ブレンディット型英語 e ラーニング授業の可能性	佐賀大学文化教育学部：早瀬 博範
		数学「微分・積分学」(対面授業)において e ラーニングを用いた自己学習の充実とリメディアルの実施	佐賀大学海洋エネルギー研究センター：池上 康之
		物理専門教育での e ラーニングによる問題出題の実践例	佐賀大学理工学部：船久保 公一
20	2/24 (火)	学士力と高大連携の課題について	大学評価・学位授与機構：萩上 紘一
21	5/21 (木)	金沢大学におけるポータル利用による教育改善の取り組み	金沢大学：堀井 祐介
21	7/6 (月)	ティーチング・ポートフォリオとは何か	大学評価・学位授与機構：栗田 佳代子
21	11/25 (水)	I C T の効果はあるか	放送大学：内田 実
21	3/17 (水)	大学教育の質を組織レベルで保証するには？～愛媛大学における D P , C P , A P の開発の経験から～	愛媛大学教育・学生支援機構：小林 直人
22	10/29 (金)	大学におけるポートフォリオ活用事例集	金沢工業大学：藤本 元啓 九州工業大学：堀江 知義
22	11/17 (水)	日本人大学生を対象とした日本語・英語教育ーリメディアル教育から実力養成教育への展開ー	メディア教育開発センター 名誉教授，昭和大学客員教授：小野 博
22	2/17 (木)	大学共通科目の情報教育における現状と課題ー京都女子大学の最近 10 年の取り組みを通して考えるー	京都女子大学：水野 義之
23	5/16 (月)	大学教員の能力開発の現状と課題	東北大学高等教育開発推進センター：羽田 貴史
23	1/26 (木)	S P O D における S D プログラムの開発と運用	愛媛大学教育学生支援機構：秦 敬治
23	3/7 (水)	大学教育を考える～現在のキャリア教育と就業力育成支援事業から見えてくるもの～	立教大学大学院ビジネスデザイン研究科 渡辺三枝子氏
24	9/26 (水)	学生と共に創る講義とは？	文化教育学部 倉本哲男准教授

(出典：高等開発教育センター記録)

平成 24, 25 年度全学教育機構高等教育開発室主催 F D ・ S D フォーラム

開催年度	開催日	講演題目	講演者
24	4/19 (木)	第 5 回 佐賀大学スキルアップセミナー	高等教育開発室 山内一祥特任助教 教務課 出雲大輔・小林浩紀
24	8/10 (金)	第 6 回 佐賀大学スキルアップセミナー	高等教育開発室 山内一祥特任助教
25	4/19 (木)	第 5 回 佐賀大学スキルアップセミナー	高等教育開発室 山内一祥特任助教 教務課 出雲大輔・小林浩紀
25	8/10 (金)	第 6 回 佐賀大学スキルアップセミナー	高等教育開発室 山内一祥特任助教
25	3/17 (月)	第 27 回 F D ・ S D フォーラム 大学における学術情報基盤と図書館の機能 強化～主体的な学習への転換と図書館のラ ーニング・コモンズ～	文部科学省研究振興局参事官(情報担 当)付 学術基盤整備室長 長澤公洋 氏

(出典：全学教育機構高等教育開発室 HP: <http://www.oge.saga-u.ac.jp/development.html>)

平成 23～25 年度農学部主催 F D 講演会

開催年度	開催日	講演題目	講演者
23	7/6	ティーチングポートフォリオについて	滝澤ポートフォリオ専門委員長
23	7/20 (水)	TA 研修会	鹿児島大学大学院連合農学研究科が 主催 小林恒夫・長 裕幸・光富 勝 連大代議員
23	10/19	ハラスメント～思いやりのない行動～	佐藤 武 教授 (佐賀大学保健管理セ ンター長)
23	11/19	最近の大学生をどう理解し、対応するか	安田 郁 氏 (佐賀大学保健管理セン ター・カウンセラー)
24	8/10 (金)	TA 研修会	鹿児島大学大学院連合農学研究科が 主催 長 裕幸 (農学部生物環境科 学科・教授・連大代議員)
24	9/5	佐賀大学の EA21 活動の現状と課題	佐賀大学 EA21 委員
24	11/19	最近の大学生をどう理解し、対応するか	安田 郁カウンセラー (佐賀大学保 健管理センター)
24	1/25	卒論・修論教育などストレス時の学生への 対応及びストレス解消法	山内一祥助教 (全学教育機構特任助 教)
25	6/12 (水)	佐賀大学の EA21 活動の現状及び農学部にお ける節電対策について	農学部 安全衛生委員会 EA21 担当 近藤文義

25	7/3 (水)	T A 研修会	鹿児島大学大学院連合農学研究科が 主催 稲岡 司・野間口眞太郎・ 石丸幹二 連大代議員
25	1/22	この時期、学生をどのように支援し、研究 の進展を促すか ～ その取組方法について	山内一祥 全学教育機構 高等教育 開発室

(出典：農学部 HP: (<https://www.sso.cc.saga-u.ac.jp/ag/minutes/minutes.html>))

資料 8-2-1-1	農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会規程
資料 8-2-1-2	農学部教育委員会規程
資料 8-2-1-3	農学部教育委員会議事録（平成 25 年度）
資料 8-2-1-4	農学部教員による研究紹介リスト
資料 3-2-2-7	学生による授業評価の実施に関する報告書 (http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/hyoka.html)
資料 8-1-2-1	佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書 (http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/hyoka.html)
資料 5-5-1-1	佐賀大学ホームページ（Live Campus） (https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/portalUI/html/shibbolethStart.htm)
資料 8-2-1-5	大学院農学研究科ファカルティ・ディベロップメント委員会規程
資料 8-2-1-6	農学部映像機器整備表
資料 8-2-1-7	全学教育機構高等教育開発室 HP (http://www.oge.saga-u.ac.jp/development01.html)

【分析結果とその根拠理由】

農学部

組織的に F D 活動が実施され、教育の質の向上や授業の改善に活用されている。

農学研究科

年数回の F D セミナー開催による教員への授業評価の活用法の教育、新たな佐賀大学大学院農学研究科 F D 委員会の設置、授業評価に基づいた教員個々のシラバスなどの改善、映像機材などの導入による教育環境の充実など、F D が適切な方法で実施されており、組織として教育の質の向上や改善に結び付いている。

観点 8-2-②： 教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

農学部

技術職員、ティーチング・アシスタント等は、実験、実習において、授業担当教員と連携を図りながら、教育支援を担っている。教育支援者は、実験、実習等の場において、On Job Training も受けながら、資質を向上させている。ティーチング・アシスタントについては、授業担当教員による説明（事前研修）を実施している。技術職員に対しては、資質の向上を図る目的として研修会や学会などに参加させている。

農学研究科

技術職員、ティーチング・アシスタント等の教育支援者や補助者は、実験、実習において授業担当教員等と密接に連携し、教育支援を行っている。技術職員には、資質の向上を図る目的で毎年研修会や学会などに参加させている。また、主に大学院生が行うティーチング・アシスタントについては、佐賀大学ティーチング・アシスタント実施要項に基づき（資料 8-2-2-1），教育支援のノウハウを授業担当教員が指導し、教育支援者としての資質の向上を図っている。

平成 20, 21, 22, 23, 24, 25 年度の技術職員による研修例

年度	農学部・農学研究科	附属資源循環フィールド科学教育センター
平成 20	大島技術員：マングローブ研究打合せ（佐伯市）	福嶋技術専門職員：平成 20 年度第 1 回 JAS 講習会（熊本県御舟町カルチャーセンター），研究発表，全国大学附属農場協議会（東海大学阿蘇校舎） 嘉村技術専門職員：園芸学会平成 20 年度春季大会ポスター発表（東京農業大学），平成 20 年度第 1 回 JAS 講習会（熊本県御舟町カルチャーセンター），平成 20 年度第 2 回 JAS 講習会（熊本県御舟町カルチャーセンター） 森技術員：平成 20 年度九州地区国立大学等技術職員スキルアップ研修（鹿児島大学），平成 20 年度第 1 回 JAS 講習会（熊本県御舟町カルチャーセンター），平成 20 年度佐賀大学中堅職員研修（佐賀大学） 田原技術専門職員，福嶋技術専門職員，嘉村技術専門職員：全国大学附属農場協議会及び技術研修（東海大学阿蘇校舎） 田原技術専門職員，福嶋技術専門職員，嘉村技術専門職員，森技術員：佐賀県特別栽培農産物認証制度に係る生産管理責任者講習会，第 1 回佐賀有機農業塾（唐津総合庁舎）
平成 21	中谷技術員：九州地区国立大学法人等技術専門職員・中堅職員研修（九大五十周	福嶋技術専門職員：平成 21 年度全国大学附属農場協議会秋季協議会並びに教育研究シンポジウム及

	年記念講堂），機器・分析技術研究会 実験・実習技術研究 in 琉球（琉球大学） 大島技術員：バラフ及びマングローブの生育調査，鹿島市マングローブ移動作業（鹿島市）	び岩手大学農学部圃場の視察（ホテルメトロポリタン盛岡及び岩手大学農学部），JAS 講習会（植木町生涯学習センター） 嘉村技術専門職員：九州地区国立大学法人等技術専門職員・中堅技術職員研修（九州大学五十周年記念講堂），全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員研修 研究発表：有機栽培における佐賀県地方野菜‘女山ダイコン’の自家採種基地の開発（宮崎大学農学部自然共生フィールドセンター） 森技術員：全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員研修（宮崎大学農学部自然共生フィールドセンター），研究発表：有機栽培における佐賀県地方野菜‘女山ダイコン’の自家採種基地の開発 青木技術専門職員：九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修（熊本大学）
平成 22	中谷技術専門職員：局所排気装置定期自主検査者養成講習，平成 22 年度総合技術研究会（熊本大学），平成 22 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 大島技術員：アイズプラントの栽培に関する打合せ（日田市役所），平成 22 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 片山技術員：みかん亜科植物（ゲッキツ）及びシーカーシャの現地調査のため（那覇市近郊のゲッキツ調査地），平成 22 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学）	福嶋技術専門職員：園芸学会平成 22 年度秋季大会（大分大学），平成 22 年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員研修（那覇市），平成 22 年度九州地区国立大学法人等技術専門員研修会（大分大学），平成 22 年度総合技術研究会（熊本大学），平成 22 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 嘉村技術専門職員：園芸学会平成 22 年度秋季大会ポスター発表（大分大学），JAS 講習会（熊本市），佐賀県特別栽培農産物講習会（佐賀市），平成 22 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 森技術員：園芸学会平成 22 年度秋季大会口頭発表（大分大学），平成 22 年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員研修ポスター発表（那覇市），平成 22 年度佐賀大学技術発表会口頭発表（佐賀大学），佐賀県特別栽培農産物講習会（佐賀市），事務職員向け知的財産研修（佐賀大学）
平成 23	中谷技術専門職員：有機溶剤作業主任者技能講習，平成 23 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学）	福嶋技術専門職員：園芸学会平成 23 年度秋季大会ポスター発表（岡山大学），平成 23 年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員研修

	大島技術員：平成 23 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 片山技術員：平成 23 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学）	ポスター発表（鹿児島大学），トカラヤギ系統保存のための雄ヤギ交換および打ち合わせ（鹿児島大学），平成 23 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 嘉村技術専門職員：九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修（長崎大学），平成 23 年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員研修（鹿児島大学），平成 23 年度佐賀大学技術発表会口頭発表（佐賀大学） 森技術員：新たな農林水産政策を推進する実用化技術開発事業「加工用タマネギ増産に向けた技術開発」キックオフミーティング（北海道農業研究センター），新たな農林水産政策を推進する実用化技術開発事業「加工用タマネギ増産に向けた技術開発」平成 23 年度研究推進会議（鹿児島市），園芸学会平成 23 年度秋季大会ポスター発表（岡山大学），平成 23 年度園芸学会九州支部大会口頭発表（那覇市），JAS 講習会（熊本市），平成 23 年度佐賀大学中堅職員研修（佐賀大学），平成 23 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学）
平成 24	中谷技術専門職員：平成 24 年度九州地区国立大学法人等技術専門職員・中堅技術職員研修（佐賀大学），平成 24 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 有田技術員：マングローブ林海外現地調査（インドネシア，スマトラ島リアウ州スンガイアサム），平成 24 年度佐賀大学新採用事務系職員研修（佐賀大学），平成 24 年度農業機械士養成研修及び大型特殊自動車免許研修（佐賀県農業試験場および佐賀県農業大学校），平成 24 年度佐賀大学技術発表会口頭発表（佐賀大学） 岩吉技術員：平成 24 年度佐賀大学新採用事務系職員研修（佐賀大学），平成 24 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 片山技術員：平成 24 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学）	福岡技術専門員：全国附属農場協議会九州地域協議会及び技術員研修（佐賀大学），平成 24 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 嘉村技術専門職員：全国附属農場協議会九州地域協議会及び技術員研修（佐賀大学），平成 24 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 森技術員：全国附属農場協議会九州地域協議会及び技術員研修（佐賀大学），平成 24 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 山口技術員：全国附属農場協議会九州地域協議会及び技術員研修（佐賀大学），平成 24 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学），平成 24 年度佐賀大学新採用事務系職員研修（佐賀大学）

平成 25	中谷技術専門職員：平成 25 年度 九州地区総合技術研究会ポスター発表（長崎大学），平成 25 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 有田技術員：マングローブ林海外現地調査（インドネシア、スマトラ島ランポン州マルガサリ），平成 25 年度 九州地区総合技術研究会ポスター発表（長崎大学），平成 25 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 岩吉技術員：平成 25 年度佐賀大学フォローアップ研修（佐賀大学），平成 25 年度九州地区総合技術研究会（長崎大学），平成 25 年度佐賀大学技術発表会口頭発表（佐賀大学）	嘉村技術専門職員：全国附属農場協議会九州地域協議会及び技術員研修（九州大学），平成 25 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学） 山口技術員：全国附属農場協議会九州地域協議会及び技術員研修（九州大学），平成 25 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学），平成 25 年度佐賀大学フォローアップ研修（佐賀大学），鹿児島大学入来牧場技術研修（鹿児島大学） 於保技術員：平成 25 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学），平成 25 年度佐賀大学新採用事務系職員研修（佐賀大学）
----------	---	---

（出典：農学部事務局記録）

資料 8-2-2-1 佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領

(<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/612.html>)

【分析結果とその根拠理由】

農学部

教育支援者の資質の向上を図る研修等の取組は適切に実施されている。

農学研究科

教育支援者に対し，教育活動の質の向上を図るための研修を行い，また，佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領を定め，授業補助者へ授業担当教員が教育支援のノウハウを指導するなど，資質の向上を図るための取組を行っている。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部及び農学研究科では，各種アンケート調査から，教育の状況についての点検・評価及び教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され，機能している。

【改善を要する点】

特になし

（3）自己評価の概要

農学部及び農学研究科では、各種アンケート調査から、教育の状況についての点検・評価及び教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していると判断される。

基準9 財政基盤及び管理運営**(1) 観点ごとの分析****9-2 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され、機能していること。**

観点9-2-①： 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能をもっているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

【観点に係る状況】**農学部**

農学部の管理運営は、学部長のリーダーシップの下で、教員組織と事務組織（農学部事務長、総務担当職員及びアグリ創生教育研究センター事務職員）が連携・協力しながら、任務を果たしている。なお、農学部では全学的な管理運営に係る諸規則・諸規程に加えて、独自の諸規程等を制定・整備し、農学部の管理運営に係る業務を遂行している。これら諸規程等には、制定目的、職務、委員会構成などを明記している。

管理運営に係る農学部委員会と構成員（平成25年4月現在）

委員会等の名称	構成員
学部運営会議	学部長，副学部長（3），学科長（3），アグリ創生教育研究センター長
農学部基本計画委員会	副学部長（1），学科選出教員（6）
農学部予算委員会	副学部長（1），学科選出教員（3）
農学部人事委員会	学科選出教員（6）
農学部中期目標・中期計画実施本部	学部長，副学部長（3），学科長（3），アグリ創生教育研究センター長，学部長指名者（1），事務長
農学部施設委員会	副学部長（1），大学施設マネジメント委員会委員（1），基本計画委員会委員（2）
農学部中期目標・中期計画実施本部作業部会	副学部長（3），関係委員会委員（8），総務係長
農学部安全衛生委員会	副学部長（1），学生委員会委員（1），講座選出委員（7），センターの衛生推進者（1），農学部技術職員（1），センター技術職員（1）
アグリ創生教育研究センター運営委員会	センター長，学科選出委員（3），センター長が必要と認めた者（3），センター専任教員（4），事務長

農学部の管理運営に関する主な規則・規程等（平成25年4月現在）

全般	農学部規則，農学部教授会規程，農学部運営会議規程，農学部副学部長に関する規程（選考規程），農学部事務分掌規程，農学部学科長規程（選考規程），農学部基本計画委員会規程，教育研究分野の新設及び改廃の手続きについて，
----	---

評価	農学部中期目標・中期計画実施本部規程
人事	農学部長候補者選考規程，農学部人事委員会内規，人事委員会申合せ，農学部の人事に関する申合せ，教員の特別昇給候補者選考実施要領
予算	農学部予算委員会規程，学部・大学院修士課程予算配分方法，特別設備の維持費及び研究基盤支援促進経費並びに外部研究資金から光熱費等としての振替に関する申合せ
施設・安全管理	農学部施設委員会規程，農学部施設点検・評価実施細則，農学部安全衛生管理規程，農学部安全点検実施要領，農学部安全衛生委員会廃棄物処理専門部会内規，農学部防火管理委員会内規
附属センター	農学部附属アグリ創生教育研究センター規程，農学部附属アグリ創生教育研究センター長選考規程

農学部の運営に関する重要事項は，農学部長（農学研究科長を兼務）を議長とする農学部教授会で審議し，教授会構成員全員が，全学部的あるいは全学的な視野に立った学部運営を行っている。教授会の審議を実質化させ，円滑な運営を行うために，学部運営会議（学部長，副学部長，学科長，アグリ創生教育研究センター長の 8 人で組織），学科会議及び各種委員会等が設けられている。委員会の構成，責務，権限等は委員会規程等に明記されている。

農学部の管理運営責任者である農学部長の候補者の選考は，佐賀大学農学部長候補者選考規程に定めている。学部長候補者選挙管理委員会の管理の下で実施される学部長候補者の選挙結果に基づいて，教授会で審議し，学部長候補者を学長に推薦する。佐賀大学学部長選考規則に基づいて，当該学部からの推薦を受けて，学長が学部長を選考する。学部長は，教員選考委員会に出席して意見を述べることができ，学部の人事計画について方針を示すことができる。

副学部長の 1 人は教育研究評議員を充て、2 人は学部長が指名し，学科長は，学科構成員による選挙で選出され，学科を代表し，学科の運営及び学科における教育研究活動に関する事項を処理している。

危機管理のために，「非常事態発生時（勤務時間外）の緊急連絡網」を定め，教職員と学生へ周知している。緊急事態の発生を未然に防止するための実務は，専門知識を持つ教員を含む農学部安全衛生委員会（委員長は副学部長），農学部安全衛生委員会廃棄物処理専門部会等が担当している。

農学研究科

農学研究科の管理運営は，研究科長（学部長兼任）のリーダーシップの下で，教員組織と事務組織（農学部事務長と総務担当職員）が連携・協力しながら，任務を果たしている。農学部には，管理運営に関係する委員会として，管理運営を含む重要事項について検討するための組織である学部運営会議（学部長，副学部長，学科長，アグリ創生教育研究センター長の 8 人で組織）をはじめ，農学部予算委員会，農学部基本計画委員会，農学部人事委員会，農学部中期目標・中期計画実施本部，農学部施設委員会，農学部安全衛生委員会，アグリ創生教育研究センター運営委員会を設置しているが，これらの委員会は農学研究科の管理運営に関わる事項についても審議し，管理運営に係る事項は，研究科委員会において周知されている。

研究科委員会は，研究科を担当できる資格を持つ教授（26 人），准教授（21 人）及び講師（1 人）

により構成している（平成25年10月現在）。研究科委員会は、各種委員会委員の選出や、その他の運営に関する事項の審議を行っている。なお、農学研究科の管理運営に関する方針は学部の方針を準用し、各委員会委員は学部と兼務し、効率化を図っている。

危機管理のために、「非常事態発生時（勤務時間外）の緊急連絡網」を定め、教職員と大学院生へ周知している。緊急事態の発生を未然に防止するための実務は、農学研究科においても効率化を図るために農学部安全衛生委員会（委員長は副学部長）、農学部安全衛生委員会廃棄物処理専門部会等が担当している。

【分析結果とその根拠理由】

農学部

農学部の管理運営の組織と事務組織は、適切な規模となっており、適切に機能している。また、農学部の管理運営に関する諸規程が整備されて、管理運営に関わる委員会等を設置し、委員会等の責務、権限、委員選考方法等を文書として明確に定めている。危機管理のために、「非常事態発生時（勤務時間外）の緊急連絡網」を定め、教職員と学生へ周知しており、適切に機能している。

農学研究科

農学研究科の管理運営の組織と事務組織は、適切な規模となっており、適切に機能している。研究科委員会規程に基づいて、研究科委員会が招集され、農学研究科の管理運営について審議決定し、研究科の運営が行われている。管理運営に関わる委員会等の責務、権限、委員選考方法等を明確に定めている。危機管理のために、「非常事態発生時（勤務時間外）の緊急連絡網」を定め、教職員と学生へ周知しており、適切に機能している。

なお、農学研究科の管理運営に関する方針は学部の方針を準用し、各委員会委員は学部と兼務し、業務等の効率化を図っている。

観点9-2-②： 大学の構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

【観点に係る状況】

農学部

教職員のニーズは、各種学内委員会、学科会議等を介して把握されている。この際、教育研究分野レベルのニーズも把握できるように配慮している。

学生のニーズは、多様なチャンネルを介して、把握している。学生生活については、学生委員会と学生生活課、修学については、教育委員会と教務課がニーズ（課題）を把握している。チューター（担任）を含む全教員は、学生（卒業生を含む。）並びに保護者（農学部後援会会員）のニーズ把握に努めている。

学外者からのニーズは、卒業生の就職先企業、地元佐賀県関係、外部評価委員を通して把握している（資料6-2-2）。また、自己点検評価報告書を作成し、外部評価委員に農学部の管理運営について

の意見も求めている（資料 6-1-1-1）。

農学部教職員、学生、学外者のニーズは、農学部あるいは各学科で検討し、管理運営に活かしている。

農学研究科

教職員のニーズは、各種学内委員会、専攻会議、研究科委員会等を介して把握されている。教育研究分野レベル及び個人レベルのニーズも把握できるように配慮している。

大学院生のニーズは、アンケート調査（資料 6-1-2-1）や面談を通して把握している。学習については、教育委員会と教務課がニーズ（課題）を把握している。指導教員を含む全教員は、大学院生（修了生を含む。）並びに保護者（農学部後援会会員）のニーズ把握に努めている。

学外者からのニーズは、修了生の就職先企業、地元佐賀県関係、外部評価委員を通して把握している（資料 6-2-2-2）。また、自己点検評価報告書を作成し、外部評価委員に農学研究科の管理運営についての意見も求めている（資料 6-1-1-1）。

農学研究科教職員、大学院生、学外者のニーズは、農学研究科あるいは各専攻で検討し、管理運営に活かしている。

資料 6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成 20，21，22，23，24 年度）

資料 6-1-2-1 佐賀大学学生対象調査報告書（平成 25 年度）

資料 6-2-2-2 平成 20 年度企業アンケート調査報告書

【分析結果とその根拠理由】

農学部

各種委員会やアンケート等を通じて、農学部内外のニーズを把握し、それらの結果が適切な形で農学部の管理運営に反映されている。

農学研究科

各種委員会やアンケート等を通じて、農学研究科内外のニーズを把握し、それらの結果が適切な形で農学研究科の管理運営に反映されている。

観点 9－2－③： 監事が置かれている場合には、監事が適切な役割を果たしているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点9-2-④： 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取組が組織的に行われているか。

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

9-3 大学の活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点9-3-①： 大学の活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部の自己・点検評価は、農学部中期目標・計画実施本部（構成：学部長、副学部長、学科長、附属アグリ創生教育研究センター長、学部長指名職員、事務長）が、教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営及び施設の5つの領域について、教育研究等に関する教員のデータベース等に基づいて実施している（資料3-2-2-1）。自己点検・評価の結果は、冊子として発行し、公開している（資料6-1-1-1）。また、評価報告書はウェブサイト上でも閲覧することができる（資料9-3-1-1）。

農学研究科

農学研究科の自己・点検評価は、農学部中期目標・計画実施本部（構成：学部長、副学部長、学科長、附属アグリ創生教育研究センター長、学部長指名職員、事務長）が、教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営及び施設の5つの領域について、教育研究等に関する教員のデータベース等に基づいて実施している（資料3-2-2-1）。自己点検・評価の結果は、冊子として発行し、公開している（資料6-1-1-1）。また、評価報告書はウェブサイト上でも閲覧することができる（資料9-3-1-1）。

資料3-2-2-1 農学部中期目標・中期計画実施本部規程

資料6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20、21、22、23、24年度）

資料9-3-1-1 佐賀大学ホームページ（大学評価について）

(<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

農学部

法人（大学）が実施する自己点検・評価に加えて、教育研究等に関する教員のデータベース等に基づいて農学部独自の自己点検・評価がなされ、その結果は公表されている。

農学研究科

法人（大学）が実施する自己点検・評価に加えて、教育研究等に関する教員のデータベース等に基づいて農学部・農学研究科独自の自己点検・評価がなされ、その結果は公表されている。

観点9-3-②：大学の活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部の自己・点検評価は、農学部中期目標・中期計画実施本部が実施し、外部評価委員による検証を受けている。5つの領域（教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営、施設）について実施された平成24年度の自己点検・評価については、外部評価委員による検証結果を、平成26年3月に得た。自己点検・評価と外部評価の結果は冊子として取りまとめられ、公表された（資料6-1-1-1, 9-3-1-1）。冊子は、学部改善に資するため、農学部教員と関係教職員へ配布された。

農学研究科

農学研究科の自己・点検評価は、5つの領域（教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営、施設）について農学部中期目標・中期計画実施本部が実施し、外部評価委員による検証を受けている。平成24年度の自己点検・評価については、外部評価委員による検証結果を、平成26年3月に得た。自己点検・評価と外部評価の結果は冊子として取りまとめられ、公表された（資料6-1-1-1, 9-3-1-1）。冊子は、研究科の改善に資するため、農学研究科教員と関係教職員へ配布された。

資料6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20, 21, 22, 23, 24年度）

資料9-3-1-1 佐賀大学ホームページ（大学評価について）

(<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

農学部

自己点検・評価した結果について、学外者による検証は実施されている。

農学研究科

自己点検・評価した結果について、学外者による検証は実施されている。

観点9-3-③： 評価結果がフィードバックされ、改善のための取組が行われているか。

【観点に係る状況】

農学部

評価の結果明らかになった問題点は、学科会議、学部教育委員会、学部運営会議等で検討するとともに、改善が必要な事項等を、教授会等を通じて教員へ周知し、学部教育の質の向上のために活用している（資料6-1-1-1）。

農学研究科

評価の結果明らかになった問題点は、専攻会議、大学院教育委員会小委員会、学部運営会議等で検討するとともに、改善が必要な事項を、研究科委員会等を通じて教員へ周知し、大学院教育の質の向上のために活用している（資料6-1-1-1）。教育の質の向上・改善を図るために必要な抜本的な事項については、基本計画委員会で検討がなされている（資料9-3-3-1）。

資料6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20, 21, 22, 23, 24年度）

資料9-3-3-1 基本計画委員会議事録（平成25年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

評価結果のフィードバック・システムが整備され、学部の管理運営及び教育研究体制等の改善に活用されている。

農学研究科

評価結果のフィードバック・システムが整備され、研究科の管理運営及び教育研究体制等の改善に活用されている。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 1 管理運営のための組織及び事務組織は、適切な規模を有し、危機管理等に係る体制も整備され、これらは適切に機能している。
- 2 農学研究科の管理運営に関する方針は、学部の方針を準用し、各委員会委員は学部と兼務し、管理運営業務等の効率化を図っている。
- 3 各種委員会やアンケート等を通じて得られた農学部・農学研究科内外の管理運営に対するニーズ等を適切に把握し、それらの結果を教授会・研究科委員会等を通じて教職員に周知し、農学部の管理運営に反映させている。
- 4 学部及び研究科の自己点検評価・外部評価に関する評価結果のフィードバック・システムが整備

され、学部及び研究科の管理運営及び教育研究体制等の改善に活用されている。

【改善を要する点】

平成24年度の自己点検・評価報告書に対して、その評価手法を検証しました。それぞれの評価項目が適切な根拠資料に基づいて評価されており、その客観性と公平性を追求した評価手法は手堅く妥当であると判断されます。

評価基準自体に基本的な改善すべき点は見受けられません。（24年度外部評価の結果より）

（3）基準9の自己点検評価の概要

教員数が50人程度の小さな本学部において、管理運営のための組織及び事務組織は適切な規模を有し、これらは適切に機能している。また、危機管理のために、「非常事態発生時（勤務時間外）の緊急連絡網」を定め、教職員と学生へ周知しており、適切に機能している。さらに、農学研究科の管理運営に関する方針は学部の方針を準用し、各委員会委員は学部と兼務し、管理運営業務等の効率化を図っている。各種委員会やアンケート等を通じて得られた農学部・農学研究科内外の管理運営に対するニーズ等を適切に把握し、それらの結果を教授会・研究科委員会等を通じて教職員に周知し、農学部の管理運営に反映させている。学部及び研究科の管理運営や教育研究の自己点検評価・外部評価は適切に行われており、それらに関する評価結果のフィードバック・システムが整備され、学部及び研究科の管理運営及び教育研究体制等の改善に活用されている。

基準 10 教育情報等の公表

(1) 観点ごとの分析

10-1 大学の教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。

観点 10-1-① 大学の目的（学士課程であれば学部，学科又は課程等ごと，大学院課程であれば研究科又は専攻等ごとを含む。）が，適切に公表されるとともに，構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

【観点到係る状況】

農学部

農学部の目標は，農学及び関連する学問領域において，多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することである。この農学部の目標，また組織する 3 学科の目標については，農学部のホームページで公開するとともに，平成 25 年度佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（資料 4-2-1-1）や佐賀大学農学部履修の手引（資料 2-1-1-4）に記載し，教職員及び学生に周知している。農学部の目標，各学科の概要等については，入学時のガイダンスにおいても教育委員，チューター教員等から学生へ周知されている。

農学研究科

農学研究科の目標は，食糧問題と環境問題を克服し，地球上の生物が共存し続けるための科学技術の発展に寄与するために，社会・国際ニーズに応えられる創造性豊かな専門家を育成することである。この研究科の目標については，農学研究科のホームページで公開するとともに，平成 25 年度佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（資料 4-2-1-1）や佐賀大学大学院農学研究科大学院履修案内（資料 2-1-3-2）に記載し，教職員及び学生に周知している。平成 22 年度の研究科改組に伴う，1 専攻 5 コース及び副コース（農業技術経営管理学コース）の設置に関する教育研究の理念と目標，設置趣旨等についても，これらの冊子に明記されている。研究科の目標，コース概要等については，入学時のガイダンスにおいても教育委員等から学生へ周知されている。

資料 4-2-1-1 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成 25 年度）

資料 2-1-1-4 農学部履修の手引（平成 25 年度）

資料 4-1-1-6 佐賀大学大学院学生募集要項（平成 26 年度）

資料 2-1-3-2 大学院農学研究科履修案内（平成 25 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

農学部の目標，概要等は，ホームページ及び佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要や佐賀大学農

学部履修の手引等の冊子で公表されており、ガイダンス等において学生へ適時周知されていることから、説明責任が果たされている。

農学研究科

農学研究科の目標、概要等は、ホームページ及び大学院農学研究科概要や大学院履修案内等の冊子で公表されており、ガイダンス等において学生へ適時周知されていることから、説明責任が果たされている。

観点 10-1-1-②： 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表、周知されているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部の入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針は、三つの方針として、ホームページ（佐賀大学学生センターのウェブサイト）上で一般に公開（資料 10-1-2-1）されている。また、各学生に配布される履修の手引の中にも、各学科の教育目標、開講意図、標準履修モデル、履修認定と卒業要件等が明記されており、教育委員やチューター教員、また指導教員等から適宜周知されている。

農学研究科

農学研究科の入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針は、三つの方針として、ホームページ（佐賀大学学生センターのウェブサイト）上で一般に公開（資料 10-1-2-1）されている。また、各学生に配布される大学院履修案内の中にも、各コースの教育目標、研究指導の方法、修士論文及び最終試験の評価基準、修了要件と学位、授業科目と履修方法等が明記されており、教育委員や指導教員から適宜周知されている。

資料 10-1-2-1 佐賀大学ホームページ（佐賀大学の教育方針について）

(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html>)

【分析結果とその根拠理由】

農学部及び農学研究科の三つの方針はホームページ上で公開されており、また大学院履修案内のような冊子にもその内容が記載され、学生に周知されていることから、説明責任が果たされている。

観点 10-1-③： 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第 172 条の 2 に規定される事項を含む。）が公表されているか。

【観点に係る状況】

農学部及び農学研究科における教育研究活動の情報は、農学部自己点検・評価報告書（最新版は平成 24 年度版）等の冊子及び佐賀大学ホームページ（研究業績メタデータベースのウェブサイト）により一般に公開（資料 10-1-3-1、資料 6-1-1-1）されている。ウェブサイト上の情報には、各教員の組織名、職名、専門分野、所属学会、学歴、職歴、受賞歴、研究テーマ等が含まれ、また各個人の研究業績データベースのページや研究室のホームページにもリンクしており、各教員の教育研究基礎情報が適切に掲載されている。

また、毎年農学部同窓会との連携により、農学部の最新の研究成果について数名の教員が紹介するシンポジウムを独自に開催し、農学部同窓会会員、旧農学部教員、地域試験場研究者、企業研究者及び一般市民や高校生を対象に講演を行い、広く研究成果を公表している。

資料 10-1-3-1 佐賀大学ホームページ（研究業績メタデータベース）

(<http://udb.cc.saga-u.ac.jp/>)

資料 6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成 20、21、22、23、24 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部及び農学研究科における教育研究活動の情報は、農学部自己点検・評価報告書等の冊子及びウェブサイト（佐賀大学ホームページ）で一般に公開されていることから、説明責任が果たされている。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部同窓会との連携により毎年研究成果シンポジウムを独自に開催し、農学部同窓会会員、元農学部教員、地域試験場研究者、企業研究者及び一般市民や高校生を対象に情報を発信している。

【改善を要する点】

特になし

（３）基準 10 の自己評価の概要

農学部及び農学研究科では、その教育研究活動等についての情報が、ホームページや各種公開シンポジウム等で適切に公表され、説明責任が果たされている。

国立大学法人佐賀大学部局等評価検証結果報告書

部局等の名称 農学部・農学研究科

部局等評価の実施時期 2015年 3月

1. 評価手法

当該部局から提出された評価手法に関する資料に基づき部局等評価の評価手法について検証した結果、

○評価手法は適切であった。

・評価手法には改善すべき点があった。(具体的な内容は別紙1)

2. 評価基準

当該部局から提出された評価基準に関する資料に基づき部局等の評価の評価基準について検証した結果、

○評価基準は適切であった。

・評価基準には改善すべき点があった。(具体的な内容は別紙2)

3. 評価の妥当性

当該部局から提出された自己点検・評価報告書に基づき部局等評価の妥当性について検証した結果、

・評価は評価基準に照らして妥当である。

○評価は評価基準に照らして妥当でない点があった。(具体的な内容は別紙3)

国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則第3条第2項に定める検証を行い、上記のような結果が得られた。

平成27年 3月29 日

検証者 氏名

古賀 和文 印

別紙 1（評価手法についての改善すべき点）

平成 25 年度の佐賀大学農学部自己点検・評価報告書を平成 24 年度と同報告書および評価検証結果報告書を比較・検討しつつ、その評価手法を検証しました。平成 24 年度の場合と同様に、それぞれの評価項目が適切な根拠資料に基づき明解な表現で評価されており、その客観性と厳格性を追求しようとする評価手法は、全体として見た場合、妥当なものになっていると判断される。

全国の農学部のうち教員数からみて小規模部類にはいる佐賀大学農学部が「評価」に関して多大なるエネルギーと経費を費やされている状況から判断すれば、毎年の外部評価自体の見直し・再検討も必要ではないでしょうか。

別紙 2（評価基準についての改善すべき点）

評価基準自体については、基本的に改善すべき点はありませんが、一点だけ指摘しておきます。それは「単位の実質化」との関連で評価基準 5 の観点 5-2-③:適切なシラバスが作成され、活用されているか、ということについては、学部が組織として、そして教員個人として十分に対応されていると判定されますが、「活用」の面で学生が実際の授業内容展開の過程でシラバスとの関係を認識しているかは判定が難しいと思われます。

従って、「単位の実質化」の問題もそうであるように、シラバスの「活用」も教員と学生の一定の共通認識のもとで真の「シラバスの実質化」が可能と考えます。

別紙 3（評価が評価基準に照らして妥当ではない点）

評価基準に照らして、その評価が明らかに妥当でない点はありませんが、今後の検討事項として若干の指摘をしておきたいと思います。

- ・本報告書の表紙にある「地域貢献と国際貢献を目指す」佐賀大学農学部とありますが、報告書においては、特に「国際貢献」の面が具体的に見えてこない点が残念です。当然のことながら、「農学部は、教育と研究は一体であるという基本的方針」（p10）に基づき、「農学部の自己点検・評価は、-----教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営及び施設の5つの領域について----実施している」（p92）ということからすれば、豊かな国際研究・教育交流が展開されていると推察されます。
- ・p12 教員組織の活動をより活性化するための措置に関して、それを検討する制度的・組織的仕組みは、示されているが、措置の具体事例がないので必ずしも十分ではない。
- ・p28-29 編入学者の実数が減少傾向にあることに対しての方策として、入学定員の削減策を取り上げられていますが、昨年度の報告書でも指摘しましたように、「質の良い学生」を維持するというよりも「育てる」という意識がまず必要ではないでしょうか。
- ・p45-46 大学院農学研究科での「適切なシラバスが作成され、活用されているか」に関して、院生アンケートの結果、シラバスに肯定的結果が6割以上ということをもって自己評価もこの状況を肯定的に評価されていますが、6割以上を妥当とするという評価基準はいかなる根拠に基づいているのでしょうか。大学院教育が極めて少人数教育で行われていることからすれば、シラバスを含めた「教育」についての院生の意見をすぐに形あるものに反映させることが可能ではないでしょうか。そのように考えた場合、8割以上の院生が肯定的意見をもって当然だと思います。
- ・p53-54 大学院生の研究活動の成果発表数が平成23年度以降、激減しているのは教員のウェブ入力率の低下が原因であると、明確に認識されていることからすれば、早急に改善へ行動を起こすべきでしょう。ただ平成25年度の論文発表数に関しては、以前の水準に戻っているようですが。
- ・p57 平成25年度農学研究科修了者におけるアンケート調査に関して、調査項目は学習（研究）の達成度や満足度を測定する上で適切になっているが、回収率が昨年度よりも更に低下して20%台になっていることは、調査結果の精度の点で低下し、統計上の価値自体が失われる水準にあるので改善が必要と思われます。
- ・p59-61 観点6-2-②:卒業（修了）生や就職先等からの意見聴取の結果から判断して、学習成果があがっているか、に関して状況把握の根拠が平成20年度のアンケート調査になってい

ることは、平成 25 年度の自己点検・評価の根拠資料には相応しくない。今日の社会が激変していることを考慮に入れた場合なおのことである。

- ・ p67-68 農学研究科の授業科目選択の際、ガイダンスを理解できたかのアンケートに修了予定者の 25%が「あまり知らない」と回答していることは、若干、問題ではないでしょうか。院生の指導教員への過度な依存と主体性の不足を表していないでしょうか。